

# 日本学術会議第148回総会資料

(第20期 第3回)

平成18年4月10日(月)

(2006年)4月11日(火)

4月12日(水)

日本学術会議

# 一般的注意事項

## 1 出席のサイン及び名札・票等の取扱い

- (1) 総会に出席される方は、毎日受付で出席のサインをされた後、名札・票等をお受け取りください。
- (2) 会議終了後は、名札・票等を必ず返却してください。

## 2 旅費の支給について

講堂前で、旅費請求書に押印していただきます。印鑑を必ず御持参ください。

## 3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

## 4 投票を行う場合の方法

採決に当たって投票を行う場合には、番号札（水色の票）を係員に渡してから、議案を可とする会員は青票を、議案を否とする会員は赤票を、議案の可否を決しない会員は白票を投票箱に投入してください。

（注1）投票を行う際には、中央の二つの通路から投票箱に進み、投票後は、壁際の通路から帰席してください。

（注2）実際に投票が行われる際には、投票方法の詳細等について、改めて説明があります。

## 5 委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、ビジョンボックスわきの黒板等に掲示してお知らせいたします。

## 6 その他

- (1) 電話等の連絡は、ビジョンボックスわきの黒板に掲示いたします。なお、公衆電話は、1階及び5階に設置してありますので御利用ください。
- (2) 講堂内は禁煙です。喫煙の際は喫煙コーナーを御利用ください。

日本学術会議第148回総会資料目次

A : 資料分類		
報 : 報告	A	B
提 : 提案	総会	148
B : 資料一連番号		

A	B	件名	ページ
報	1	会長経過報告	1
報	2	総合科学技術会議関係報告	7
報	3	第一部会報告	9
報	4	第二部会報告	12
報	5	第三部会報告	15
報	6	選考委員会報告	21
報	7	科学者委員会報告	23
報	8	科学と社会委員会報告	25
報	9	国際委員会報告	26
報	10	哲学委員会報告	29
報	11	社会学委員会報告	30
報	12	史学委員会報告	31
報	13	地域研究委員会報告	32
報	14	法学委員会報告	33
報	15	経済学委員会報告	35
報	16	基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同報告	37
報	17	農学基礎委員会・生産農学委員会合同報告	38
報	18	健康・生活科学委員会報告	40
報	19	歯学委員会報告	41
報	20	薬学委員会報告	42
報	21	物理学委員会報告	43
報	22	地球惑星科学委員会報告	44
報	23	情報学委員会報告	46
報	24	総合工学委員会報告	48
報	25	土木工学・建築学委員会報告	50

A	B	件名	ページ
報	26	科学者の行動規範に関する検討委員会報告	53
報	27	学術とジェンダー委員会報告	56
報	28	政府統計の作成・公開方策に関する委員会報告	58
報	29	学術・芸術資料保全体制検討委員会報告	59
報	30	地区会議報告	61
報	31	科学者委員会広報分科会報告	65
報	32	科学者委員会男女共同参画分科会報告	66
報	33	科学者委員会学術体制分科会報告	67
報	34	科学と社会委員会科学力増進分科会報告	68
報	35	国際委員会国際会議主催等検討分科会報告	69
報	36	国際委員会日英学術交流分科会報告	70
報	37	国際委員会アジア学術会議分科会報告	71
報	38	国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2006分科会報告	72
報	39	国際委員会 I C S U 等分科会報告	73
報	40	国際委員会 A A S S R E C 等分科会報告	74
報	41	史学委員会国際歴史学会議等分科会報告	75
報	42	史学委員会 I U H P S 分科会報告	76
報	43	地域研究委員会・環境学委員会合同 I H D P 分科会報告	77
報	44	法学委員会 I A L S 分科会報告	78
報	45	基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 I U P A B 分科会報告	80
報	46	農学基礎委員会・生産農学委員会合同 C I G R 分科会報告	81
報	47	基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 I U M S 分科会報告	82
報	48	農学基礎委員会・生産農学委員会合同 I U S S 分科会報告	83
報	49	基礎医学委員会 I U P H A R 分科会報告	84
報	50	基礎医学委員会 I C L A S 分科会報告	85
報	51	基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 C I O M S 分科会報告	86
報	52	基礎医学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会合同 U I C C 分科会報告	87
報	53	環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 I G B P 分科会報告	88
報	54	物理学委員会 I U P A P 分科会報告	89
報	55	物理学委員会 I A U 分科会報告	92
報	56	地球惑星科学委員会国際対応分科会報告	93
報	57	化学委員会 I U P A C 分科会報告	94

A	B	件名	ページ
報	58	化学委員会 I U C r 分科会報告	95
報	59	総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 W F E O 分科会報告	96
報	60	総合工学委員会 I C O 分科会報告	97
報	61	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 I F A C 分科会報告	98
報	62	機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 I U T A M 分科会報告	99
報	63	電気電子工学委員会 U R S I 分科会報告	100

報	1
総 会	1 4 8

## 会 長 経 過 報 告

平成18年4月10日

会 長 黒 川 清

### 前回（第147回）総会以降の経過報告

#### 第1 幹事会での主要決定事項とその処理

##### 1 連携会員の候補者の決定

日本学術会議会則第8条第4項の規定に基づき、連携会員の候補者を決定した。

(平成18年 2月23日)

##### 2 委員会報告の外部への発表

- ・政府統計の作成・公開方策に関する委員会報告

「政府統計の改革に向けて－変革期にある我が国政府統計への提言－」

(平成18年 3月23日)

##### 3 課題別委員会の設置及び設置要綱の決定

次の課題別委員会を設置し、設置に伴い要綱を決定した。

(1) 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会(平成18年 2月13日)

(2) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会

( )

(3) 教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会 (平成18年 2月23日)

(4) 科学者コミュニティと知の統合委員会 (平成18年 3月23日)

(5) エネルギーと地球温暖化に関する検討委員会 ( )

##### 4 内規及び運営要綱等の改正、決定

日本学術会議会則の改正等に伴う内規の改正、分野別委員会の分科会の設置等に伴う運営要綱の改正等が行われた。

(1) 企画委員会運営要綱の一部改正 (平成18年 2月13日)



- (3) 加入国際学術団体等の対応に係る分野別委員会分科会委員 ( // )
- (4) 企画委員会年次報告等検討分科会委員 (平成18年 2月23日)
- (5) 国際委員会 AASSREC 等分科会委員(追加) ( // )
- (6) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2006 分科会委員 ( // )
- (7) 国際委員会 PSA 分科会委員 ( // )
- (8) 国際委員会 PSA 分科会委員(追加) (平成18年 3月23日)
- (9) ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会委員 ( // )
- (10) 学術・芸術資料保全体制検討委員会委員(追加) ( // )
- (11) 科学者の行動規範に関する検討委員会分科会委員 ( // )
- (12) 国際委員会 ICSU 等分科会、AASSREC 等分科会、PSA 分科会委員 ( // )
- (13) 学術とジェンダー委員会委員(追加) ( // )
- (14) 分野別委員会分科会委員 ( // )
- ・ 哲学委員会
  - ・ 史学委員会 I U H P S 分科会
  - ・ 地域研究委員会・環境学委員会合同 I H D P 分科会
  - ・ 法学委員会 I A L S 分科会
  - ・ 法学委員会法学系大学院分科会
  - ・ 法学委員会「法における公と私」分科会
  - ・ 政治学委員会民主主義と信頼分科会
  - ・ 数学委員会
  - ・ 物理学委員会
  - ・ 電気電子工学委員会
  - ・ 材料工学委員会
  - ・ 物理学委員会・総合工学委員会合同 I U P A P 分科会
  - ・ 地球惑星科学委員会国際対応分科会
  - ・ 化学委員会 I U P A C 分科会
- (15) 教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会委員 ( // )
- (16) 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会委員 ( // )



(2) 日本医療政策機構シンポジウム「日本の決断—国民が真に求める医療政策とは」

(平成18年 2月13日)

## 第2 表敬訪問（日本学術会議来訪者との意見交換）

次の方々が来訪し、会長等と意見交換した。

月 日	来 訪 者	対 応 者
平成18年 3月 1日	ハーバード大学教授（NAS会員） Lewis M. Branscomb	黒川会長
平成18年 3月28日	英国王立協会副会長 Prof. Julia Higgins 英国王立協会 Secretary Ms. Carol Rennie Consul, Science and Innovation British Consulate-General Dr. Robert Morini	石倉副会長

## 第3 その他報告事項

### 1 会長代理の指名

会長の海外出張につき、日本学術会議法第9条第2項の規定に基づき、次のとおり会長代理の指名を行った。

(1) 平成18年 1月24日～ 2月 4日（大垣副会長）

(2) 平成18年 3月18日～ 3月22日（石倉副会長）

### 2 各賞受賞候補者の推薦

次の各賞候補者の推薦について審議の上、依頼者あて回答した。

#### ・ 推薦見送り

(1) 2006年度ルフロン・ドラランド賞 (平成18年 2月13日)

(2) 2006年バルザン賞 (平成18年 2月23日)

(3) キング・ファイサル国際賞 (平成18年 3月23日)

(4) 本田賞 ( " )

### 3 日本学術会議主催公開講演会及び地域振興フォーラムの開催

- (1) 日本学術会議主催公開講演会「技術者の倫理と社会システムー耐震強度偽装事件と橋梁談合事件の学術的検討ー」を平成18年3月30日(木)に本会議講堂において開催した。
- (2) 日本学術会議地域振興中部地区フォーラム「大学と知的資源と地域イノベーション」を、平成18年3月3日(金)金沢大学で開催した。

### 4 慶弔等

- (1) 次の方々に対し、会長名で祝電を呈した。

- ① 日本学士院賞(平成18年3月13日付)

鈴村 興太郎(第18期第3部会員、第20期 第1部幹事)

坂村 健(第20期第3部会員)

和賀井 敏夫(第14期第7部会員)

- ② 日本学士院エジンバラ公賞(平成18年3月13日付)

佐々木 恵彦(第15期～第17期 第6部会員)

- (2) 次の方の逝去に対し、会長名で弔電を呈した。

福田 陸太郎(平成18年2月4日)

(第13期、第14期 第1部会員 語学・文学)

都留 重人(平成18年2月5日)

(第2期から第6期 第3部会員 経済学)

米山 俊直(平成18年3月9日)

(第16期第1部会員、文化人類学)

満田 久輝(平成18年3月10日)

(第7期第6部会員、栄養化学)

小川 洌(平成18年3月15日)

(第17期第3部会員、会計学)

### 5 人事

事務局

参事官(審議第一担当)

旧:秋葉正嗣(平成18年4月1日付け)

新:神代浩( )

報	2
総 会	148

## 総合科学技術会議関係報告

平成18年4月10日

会長 黒川 清

### 1. 総合科学技術会議

会 議 名	年月日	議 題
総合科学技術会議 (第52回)	18. 2. 28	1 分野別推進戦略の検討状況について 2 研究上の不正に関する適切な対応について 3 最近の科学技術の動向 4 その他
総合科学技術会議 (第53回)	18. 3. 22	1 第3期科学技術基本計画（平成18～22年度）について 2 分野別推進戦略について 3 今後の科学技術政策の進め方について 4 科学技術振興調整費について

### 2. 専門調査会

会 議 名	年月日	議 題
評価専門調査会 (第52回)	18. 2. 24	1 総合科学技術会議が必要と認め指定して行う評価について（議題）
評価専門調査会 (第53回)	18. 3. 23	1 第3期科学技術基本計画に基づく分野別推進戦略について（報告事項） 2 総合科学技術会議が必要と認め指定して行う評価について（議題）

知的財産戦略 専門調査会 (第28回)	18. 2. 8	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的財産戦略についての取組みの状況及び今後の課題について</li> <li>2 知的財産を活用した産学官連携の推進</li> <li>3 優れた知的財産創出のための知的財産活動の推進</li> </ol>
知的財産戦略 専門調査会 (第29回)	18. 3. 9	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的財産による地域の振興</li> <li>2 知的財産人材の確保・育成</li> </ol>
基本政策専門 調査会 (第17回)	18. 2. 22	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分野別推進戦略の検討状況について</li> <li>2 その他</li> </ol>
基本政策専門 調査会 (第18回)	18. 3. 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 分野別推進戦略案について</li> <li>2 その他</li> </ol>

報	3
総 会	1 4 8

## 第一部会報告

2006年3月23日

第1部長 広渡 清吾

### 1 会議開催

2006年2月2日（第2回拡大役員会）

2006年2月13日（第3回）

### 2 報告事項

第2回拡大役員会（2006年2月2日）

第1部役員及び分野別委員会委員長・副委員長で構成された拡大役員会を開催し、次の問題について審議した。

- (1) 連携会員の選考について
- (2) 特任連携会員について
- (3) 課題別委員会について
- (4) 分野別委員会について
- (5) 国際活動のための分科会設置について
- (6) 学協会との連携について
- (7) 会長選挙制度の改正について
- (8) その他

第3回部会（2006年2月13日）

#### 1. 報告事項

活動報告の概要については総会資料で確認することとした。

##### (1) 第1部からの報告

2月2日に第1部役員及び分野別委員会委員長・副委員長で構成された拡大役員会を開催し、当面する諸問題について審議した。今後、この拡大役員会については必要に応じて開催するが、年3回程度の定期化を計ることとした。

## (2) 幹事会からの報告

広渡部長より、全般的な審議状況について報告があった。

## (3) 各委員会からの報告

### ①機能別委員会

選考委員会からは小林会員より連携会員推薦の第1部の絞り込み作業について、科学者委員会からは辻村会員より男女共同参画分科会及び学術体制分科会の目的、活動内容、所掌範囲についてそれぞれ報告があった。

### ②分野別委員会

猪口（孝）会員より1月28日に開催された政治学委員会主催シンポジウムについて報告があった。

### ③課題別委員会

第1部会員が提案者として関わり設置が承認された課題別委員会について紹介があった。

## 2. 審議事項

### (1) 会則改正案（特任連携会員について）

広渡部長より臨時の連携会員についての説明と今回の改正提案に至る経緯の説明があった。佐藤副部長より、その運用について補足的な説明があった。

### (2) 会長の互選及び副会長の指名の方法（案）について

会長候補者の所信表明について、賛否の意見がそれぞれ述べられた。

### (3) 各賞の受賞候補者の推薦について

推薦候補者がいる場合は、事務局へ書類を提出することとした。

### (4) 平成18年度日本学術会議主催公開講演会（第1、2回）の企画案について

企画がある場合は、事務局へ書類を提出することとした。

### (5) 第1部としての活動について

広渡部長より、科学における人文社会系学問の存在意義と役割について多様な角度から検討することを部の課題としたい旨の発言があり、これに関して、人文社会系の役割が見えにくくなっている、学術研究基盤が弱くなっている、科研費の配分比率がアンバランスである、若手育成が緊急の課題である、学術を語る言葉としてのサイエンスが理系化しているなどの意見がだされ、今後、部長発言の方向で役員会で検討を進めることとした。

### (6) 日本学術会議協力学術研究団体の指定について

佐藤副部長が規定に照らし合わせて審査した結果、第1部関連の申請分について

特に問題はないとの報告があった。会員に意見がある場合には事務局に連絡し、処理について役員会に一任することとした。

(7) 分野別委員会の活動について（分科会の設置、連携会員の選考）

①分科会の設置

広渡部長より本日の幹事会に設置提案される分科会と設置の手続きについて説明があった。

②連携会員の選考

広渡部長より連携会員の第1次選考の決定から任命までの見通しと、第2次以降の選考プロセスについて説明があった。

これに関連して、3月に任命された連携会員が4月に連携会員の推薦をすることについて十分な説明・情報提供等が必要である旨の発言があり、広渡部長より幹事会および選考委員会でこの点について十分に配慮する旨の応答があった。

また、今回の第1次の選考結果について推薦された候補者に学術会議からの説明が必要ではないかという複数の意見があったが、選考過程はまだ継続中であり、さしあたり会員からの個別の説明で対応することとし、今回の選考手続きの全体を通じて、処理方針を検討する方向を探ることとした。

(8) 国際対応分科会、代表派遣について

国際担当事務局より代表派遣についての説明があった。

(9) 課題別委員会について

広渡部長より課題別委員会の位置づけ、新規の設置、委員の推薦等について説明があった。

以上

報	4
総 会	1 4 8

## 第二部会報告

平成18年3月23日

第二部部長 金澤一郎

### 1 会議開催

平成18年1月31日（第1回動物実験の適正な実施に向けてガイドライン策定に関する拡大役員会）

平成18年2月13日（第3回部会）

### 2 報告事項

第1回動物実験ガイドライン策定拡大役員会（平成18年1月31日）

- ・ 文部科学省（及び後日に厚生労働省）から日本学術会議が依頼を受け、第二部拡大役員会において審議することとなった。

なお、細かい作業については、文部科学省（及び後日に厚生労働省、農林水産省、環境省）からのオブザーバーも含めたワーキンググループ懇談会で行うこととし、拡大役員会、幹事会での審議、了承を得て、文部科学省に回答することとした。

第3回部会（平成18年2月13日）

#### (1) 総会提案事項について

##### ① 会則の改正案（特任連携会員等）

午前中の総会で提案理由説明のあった臨時連携会員の任命に当たって選考委員会の関与を不必要とするための会則の改正、及び「語学・文学委員会」を「言語・文学委員会」とする細則の改正するについては、二部としては、特に反対意見はなかった。

##### ② 会長互選及び副会長指名の方法（案）

会長互選に当たって、所信表明演説が必要かどうかについては、会長候補のきちんとしたプロフィールが分かるような資料があれば、敢えて必要はないのではないかという意見が多かった。

## (2) 分野別委員会のあり方について

基礎生物学委員会と応用生物学委員会の合併については、委員会内で意見交換を行い、当面は合併を行わず、合同で委員会を開催するなどして、運用で対応していくこととした。

農学基礎委員会と生産農学委員会の合併については、委員会としては、4月総会に合併の提案をする予定であったが、部会で検討した結果、今回は見合すこととし、当面は、生物学のように合同で委員会を開催するなど、運用で対応していくこととした。

## (3) 分科会の設置について

役員が作成した「第二部関連の分野別委員会の下に設置する「分科会」の案」をもとに審議を行い、一部修正を行い、幹事会に提案することとした。

なお、分科会は、主に学協会等に対応する専門分野別のA分科会と、課題別のB分科会の二種類に分けることとした。

## (4) 第二部会からの報告

- ① 「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン策定」に関する拡大役員会について、部長から、これまでの経緯、ガイドライン策定の今後の予定等について報告があった。
- ② 本日、部会終了後の幹事会において、環境委員会の事務担当が第二部から第三部へ変更される予定であるとの報告があった。
- ③ すでにメール等で意見照会した「日本医療政策機構シンポジウム 日本の決断－国民が真に求める医療政策とは」に対する日本学術会議の後援名義を許可することについて、部会終了後の幹事会に諮られる旨の報告があった。

## (5) 各委員会からの報告

- ① 各機能別委員会（企画、科学者、科学と社会、国際）の所属委員から、委員会の活動について報告があった。
- ② 選考委員会の所属委員から、連携会員選考の経過について報告があった。
- ③ 各分野別委員会委員長及び各課題別委員会所属委員から特に報告はなく、総会資料中の委員会報告を見てもらうこととした。

(6) 国際対応分科会、代表派遣について

国際担当が平成18年度代表派遣及び代表派遣候補者の推薦について説明があった。

(7) 平成20年度開催国際会議の共同主催について

事務局が内容を簡単に説明した後、役員が作成した回答案を説明し、了承された。

(8) 大阪大学蛋白質研究所運営協議会委員の推薦について

第二部としては、九州大学薬学部教授 内海英雄先生、慶応義塾大学医学部末松 誠先生、京都薬科大学教授 木曾良明先生、理化学研究所 鈴木明身先生を推薦することとした。

(9) 平成18年度日本学術会議主催公開講演会（第1, 2回）の企画案について

取り上げるべきテーマ、演題等がある場合は、3月22日（水）までに事務局へ提出することとした。

(10) 日本学術会議協力学術研究団体の称号の付与について

20期に初めて申請のあった団体について、意見（特に指定が望ましくない）がある場合、3月22日（水）までに事務局に申し出ることとした。

(11) 各賞受賞候補者の推薦について

- ① 「本田賞」受賞候補者の推薦がある場合は、推薦に必要な書類を作成の上、3月6日（月）までに事務局へ提出することとした。
- ② 「キング・ファイサル国際賞」受賞候補者の推薦がある場合は、推薦に必要な書類を作成の上、3月6日（月）までに事務局へ提出することとした。
- ③ 「ソウル平和賞」受賞候補者の推薦がある場合は、推薦に必要な書類を作成の上、3月22日（水）までに事務局へ提出することとした。

報	5
総 会	1 4 8

### 第 三 部 報 告

平成18年3月23日

部 長 海部 宣男

#### 1 会議開催

平成18年1月26日（第1回）拡大役員会

平成18年2月13日（第2回）

#### 2 報告事項

第2回拡大役員会 ー平成18年1月15日ー

（出席者数：15名）

##### (1) 連携会員候補者の選考について

海部部長より1月15日に開催した第3部拡大役員会の状況、その後の経緯および今後のスケジュールについて報告があった。

##### (2) 課題別委員会の提案について

第3部会員からは次の4件が提案されている。

仙田：「子どもの心身活性化国家戦略基本方針策定」

池田、入倉：「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築」

益田：「学生・研究人材流動化検討委員会」

中島：「科学者コミュニティと知の統合委員会」

海部部長より、課題別委員会には、新生学術会議を意識した企画、「部」を超えた広い分野の委員構成、1年での具体的成果が求められるとの発言があった。その後、仙田提案を村上会員が、池田・入倉提案を入倉会員が、益田提案を永宮会員が、中島提案を中島会員が説明し、それぞれ幹事会に提案することを承認した。なお、設置期間等の細部については事務的に担当と相談することとした。

##### (3) 各種課題別委員会の委員推薦方法について

現在の委員推薦方法について議論した。広く公募するシステムの提案、現実には会

員から回答が得られない、形式化が過ぎている等の意見があった。選出方法について幹事会等で取り上げるよう提案することになった。

#### (4) 分野別委員会分科会及び国際対応分科会について

##### ①国際対応委員会・分科会について

問題の整理および当面の対応について事務局より説明、来年度の代表派遣計画を年度末までに決める必要があること、そのために前回幹事会で承認された国際対応分科会委員を選出し、委員会を開催する必要があること、および当面のスケジュールを了承した。国際対応分科会委員の選出については該当する委員会で対応をとることとした。

##### ②分野別委員会の活動方針の確立と分野分科会

海部部長より、新生学術会議としてこれまでの分野での活動や学会との連携も重視しつつ学術と社会とを結ぶ具体的活動を、各分野・分科会レベルも含めて確立してゆくことが当面重要であること、そのために分野別委員会の長期・短期（年度）の活動方針を策定することを重点課題とし、分野分科会の設置やあり方、活動もその中で位置づけることが望ましいとの提案があり、了承された。村上会員から分科会構成案の説明があった土木工学・建築学委員会も含め、この方向で各分野別委員会を中心に活動方針および分科会設置の検討を進めることになった。スケジュールとしては3月中旬に連携会員第一次分が任命されることを考慮し、4月初めまでに分野別委員会ごとに分野分科会構成も含む活動方針の基本的な方向をまとめ、4月総会の前に拡大（分野別委員長を含む）役員会を開催して検討すること、分野にもよるが4月中をメドとして方針と分科会校正をまとめることで了承された。

#### (5) その他

次回拡大役員会は、4月4日（火）13：30～16：30とした。

### 第3回部会 ー平成18年2月13日ー

（出席者数：56名）

(1) 前回議事要旨（案）について確認し、なお意見や訂正がある場合は早急に事務局へ連絡することとした。

#### (2) 第3部報告事項

##### ① 環境学委員会の事務担当の変更について

本日の幹事会に事務の所掌を第2部から第3部に変更する旨提案することを部長

が報告した。

② 科学者委員会広報分科会の委員交代

後藤会員から須賀会員に交代（4月1日施行）する旨を部長が報告した。

③ 公開講演会について

土木工学・建築学委員会提案の「耐震強度偽装事件・橋梁談合事件等の学術的検討」の講演会の開催にあたり、仙田会員（コーディネータ）より説明があった。

(3) 連携会員について

部長より選考委員会での連携会員についての検討状況を報告し、当面のスケジュールが紹介された。それによると、2月15日の選考委員会で一次選考を終了し、2月23日の幹事会で承認される。なお、任命は3月中旬頃を予定している。

また、以下のような質疑があった。

池田会員：現会員には資源関係、船舶関係の会員がいない、連携会員の選考にあたっては分野ごとの配慮はあるのか？

海部部長：3月の始めまでに相談し提案を願いたい。

永宮会員：連携会員選考の今後のスケジュールは。

海部部長：二次募集は、4月から開始、10月の総会までに2,000人が揃う予定。

(4) 分野別委員会の活動方針策定と分科会について

部長からの提案で、1月に開催した拡大役員会での議論も踏まえ、分野別委員会ごとに連携会員も加え新しい学術会議の方向性、科学者の社会的役割を含め、今後の活動方針を議論していただきたいこと。また、分科会は活動方針の議論後にその役割を定め、構成及び活動を整理し、立ち上げを行っていただきたいこと。3部全体としての活動方針の議論の具体化はその上で進めたい旨報告をした。その後議論を行い、下記のような質疑応答の後、部長提案が了承された。

柘植会員：スケジュールはどのようなものか。

海部部長：3月には連携会員が決定しているので、4月には方針を決めていただきたい。できれば4月4日に拡大役員会を開催するので中間的なもので、提案いただきたい。

古川会員：他の部では分科会のフォーマットがあり、既に分科会の立ち上げが進んで入る。また、提案については、過去の研連との関係はどう考えるか。

海部部長：各部ごとに進め方があるので、3部の方針で行う。また、分科会は研連のイメージを持って引き継ぐこともあろうが、利益代表になつては困る。部、分野を問わず全体的に学術の現場と社会の関係の大切さを考慮した

構成や活動方針を考えていただきたい。

また、分野の考え方の変化、広い分野にわたるコミュニティの扱いなど、部でもしっかり議論していただきたい。などの意見があった。

(5) 課題別委員会への提案について

本日の幹事会に、池田・入倉会員、仙田会員及び中島会員からの課題別委員会提案が諮られることを部長より報告した。なお、益田会員の提案については、半年後を予定していること、また、外村会員から提案の予定があることを報告した。その後、討議が行われ以下のような意見があった。

榊会員：本来、学術会議に問われるべき必要のある課題の考慮検討が必要。

後藤会員：ジェンダー委員会には理系の会員はいなく、偏りがある。

池田会員：各々委員会の専門性も考慮して部の推薦人数を検討して欲しい。

(6) 国際対応の分科会と代表派遣について

代表派遣に関して、資料に沿って国際担当より説明をした。

(7) 平成20年度国際会議の共同主催の評価

事務局から説明の後、資料6の共同国際会議で、第3部関係の2件、「2008年国際炭素材料学会議」について馬越会員から、また、「第21回国際結晶学連合会議」について河野幹事から説明があった。なお、評価付けについては部長より、上記2件を推薦し、その他については国際担当に一任することを提案し、了承された。

(8) 日本学術会議協力学術研究団体の称号の付与について

資料7の申請団体に対し、「日本学術会議協力学術研究団体の称号」を付与するに相当するかを検討した。関連して榊会員より、学協会との協力関係の明確化について質問があり、土居副部長が協力学協会のリストアップなどで状況説明を行った。また、入倉会員から行動規範分野別委員会でも学協会とのサポート体制の充実化を検討している報告があった。また海部部長から、学協会との協力関係について科学者委員会でも検討する予定との発言があった。これらの意見交換の後、第3部が関係すると思われる団体について関係会員より挙手等を願い団体の性格等を聴取し、付与の相当を検討し、その判断ができる団体についてはその場で了承を得た。また、判断がつかない団体に関しては関係会員に引き続き検討を願い、後日、事務局に回答を寄せてもらうこととした。

(9) 平成18年度日本学術会議主催公開講演会（第1、2回）の企画案について部長より説明があり、提案は3月27日までに事務局へ送付することが了承された。

(10) 現在メールで照会中の課題別委員会の候補者推薦について、あらためて紹介された。

- ・「企画委員会年次報告等検討分科会」
- ・「課題別 ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会」

(11) 現在メールで照会中の受賞候補者の推薦について、あらためて紹介された。

- ・「2006年バルザン賞」・「本田賞」・「キング・ファイサル国際賞」・「ソウル平和賞」

(12) 今後のスケジュール

次回拡大役員会：4月4日（火）

次回部会（総会時）：4月10日（月）、11日（火）

報	6
総 会	1 4 8

## 選考委員会報告

平成18年4月10日

委員長 黒川 清

### 1 会議開催

平成18年 2月15日 (第7回)

平成18年 3月17日 (第8回)

### 2 報告事項

(第7回委員会)－平成18年 2月15日－

(1) 課題別委員会委員の候補者(会員以外の者)の決定について

「ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会」の委員候補者(会員以外の者)及び「学術・芸術資料保全体制検討委員会」委員追加候補者(会員以外の者)並びに「国際委員会AASSREC等分科会」委員追加候補者(会員以外の者)について、それぞれの名簿を幹事会に提出することが了承された。

(2) 連携会員候補者名簿の決定について

連携会員の候補者名簿について、原案のとおり幹事会に提出することが了承された。

(3) 今後の連携会員の選考手順等について

今後の連携会員の選考手順等について審議が行われ、概ね1500人程度を8月中に発令できるよう選考を進めること、そのための特例措置として推薦可能人数を初回推薦時と同様に「5人」までとすること等が了承された。

(第8回委員会)－平成18年 3月17日－

(1) 連携会員候補者の推薦書様式等について

2次分となる連携会員候補者の推薦書様式等について、原案を一部修正の上幹事会に諮ることが了承された。

(2) 会員の補欠者の選考方法等について

定年等に伴い退任する会員の補欠者の選考方法等について、意見交換が行われた。

## 日本学術会議連携会員選考の実績と今後の予定

平成18年4月10日

### ○初回の連携会員（実績）

平成17年11月25日 連携会員候補者推薦依頼発出

平成17年12月16日 連携会員候補者推薦締切  
会員193人から総数892人の推薦

平成18年2月15日 選考委員会  
初回の連携会員候補者を内定

平成18年2月23日 幹事会  
初回の連携会員候補者を決定

平成18年3月15日 初回の連携会員発令  
総数478人※  
〔6年任期（平成23年9月30日迄）237人  
3年任期（平成20年9月30日迄）241人〕

※ <http://www.scj.go.jp/ja/info/member/index.html> を参照

### ○2次分の連携会員（今後の予定）

平成18年3月27日 連携会員候補者推薦依頼発出

平成18年5月10日 連携会員候補者推薦締切

以 降 選考委員会等による選考、幹事会決定

平成18年8月下旬 2次分の連携会員発令  
概ね1500人程度の連携会員を発令

報	7
総会	148

## 科学者委員会報告

平成18年3月24日

委員長 浅島 誠

### 1 会議開催

平成18年2月10日（金）（第5回）

### 2 報告事項

平成18年2月10日（金）（第5回）

#### (1) 国際人権ネットワークについて

戒能前副会長から、前期までの国際人権ネットワークに関する対応状況などについて説明を受けるとともに、今後の対応について意見交換を行った。

その結果、科学者委員会には人権問題の専門家がいないうこと、また、国際的な案件でもあることから、浅島委員長が石倉副会長と相談し、どの委員会（分科会）が担当するか検討することとした。

#### (2) 平成18年度日本学術会議主催公開講演会について

平成18年度（第1、2回）の公開講演会の企画案を、各部・各委員会から募集することが了承された。

#### (3) 地区会議の活動について

事務局より、各地区会議が3月に開催する学術講演会の日程（3/14 北海道地区会議、3/7 東北地区会議、3/18 近畿地区会議、3/2 中国・四国地区会議、3/10 九州・沖縄地区会議）が報告され、次回の幹事会に提案することが了承された。

現在の地域振興フォーラム実施要綱は、フォーラムの庶務を地区会議事務局が置かれた大学が処理することとなっているが、当該大学に加えて、実施主体となる他大学においても処理出来ることが望ましいことから、次回の幹事会に改正案を提案することが了承された。

#### (4) 協力学術研究団体について

事務局より、元登録学術研究団体及び広報協力学術団体から協力学術研究団体への申込状況(2/9現在で1,710団体のうち1,239団体が申し込み。全体の約73%)が報告された。

協力学術研究団体への新規申込みのあった20学会について、各部に意見照会をすることが了承された。また、協力学術研究団体への新規申込書の様式に記入しにくい箇所があるため、次回の幹事会に様式の変更を提案することが了承された。

(5) その他

事務局より、1/23の第7回幹事会で男女共同参画分科会と学術体制分科会について、各部から推薦された候補者に基づき、委員が決定されたことが報告された。

また、日本学術振興会から依頼のあった評議員候補者の推薦依頼について、学術体制分科会において候補者を決定し、次回の幹事会に提案することが報告された。

次回の委員会は、春の総会期間中(4月12日を予定)に開催する。

報	8
総 会	1 4 8

## 科学と社会委員会報告

平成18年3月23日

委員長 大垣 眞一郎

### 1 会議開催

平成18年3月28日（第3回）（予定）

### 2 報告事項（議事予定）

- (1) 第2回議事要旨（案）の確認
- (2) 科学力増進分科会からの報告
- (3) 外部に対する日本学術会議の意思の表出について
- (4) 広報体制について
- (5) 課題別委員会について
- (6) 総合科学技術会議との連携について
- (7) 関係機関との連携について

報	9
総 会	1 4 8

## 国際委員会報告

平成18年3月20日

委員長 石 倉 洋 子

### I 本委員会

#### 1 会議開催

平成18年2月13日（月）（第2回） 於：6-C（1）会議室

平成18年3月15日（水）（第3回） 於：5-A（2）会議室

#### 2 報告事項

（第2回）－平成18年2月13日－

まず、委員長から、前回第1回の議事要旨の確認があった後、議題に沿って審議をした。要旨は以下の通りである。

##### (1) IAC理事会（オランダ）について

2月1日から2日にかけてアムステルダムのおランダ学術会議（KNAW）において行われたIAC理事会について、出席した会長及び事務局長から概要説明があった。

##### (2) G8学術会議（4月19日、20日。モスクワ）について

G8学術会議について、会長及び事務局長から昨年の活動について説明を聞いた。引き続き、今年のホスト・アカデミーであるロシア科学アカデミー（RAS）発出の、G8学術会議を4月19日及び20日にモスクワで開催する旨の通知について、当会議も主催機関である第6回アジア学術会議（SCA）の日程が4月16日から19日であり、その関係から、当該日程を同月21日及び22日に変更することについての検討要請を文書で回答する旨了解された。

##### (3) 国際学術団体対応の国内委員会の決定及び平成18年度代表派遣について

事務局から、第7回幹事会（平成18年1月23日）において、国際委員会運営要綱及び分野別委員会運営要綱の一部改正が決定され、当会議が加入している国際学術団体等に対応する国内委員会が確定した旨の報告があった。今後、各国内委員会において、来年度の代表派遣について審議の上、来る3月6日まで会長あて推薦を受けた

案件についての旅費の配分方針について了承された。

(4) IAP執行委員会への派遣者について

事務局から、来る3月27日及び28日に、リオデジャネイロで開催されるIAP執行委員会について、黒川会長に所用があるため、同会長の代理として、当委員会の中西幹事及び河野委員を派遣する旨報告があった。

(5) 日本学会会議会則第27条第2項に基づく委員会決定について

会則第27条第2項に該当する分科会として、日本・カナダ女性研究者交流分科会を追加した。

(6) 国際学会団体への新規加入について

事務局から、国際学会団体の新規加入が予算措置上難しい旨説明があった。その後、加入国際学会団体の見直しについて、各委員が意見を述べた。岸副委員長から、見直しについては、その基準作成が難しい旨指摘があり、石倉委員長から長期的に継続審議することについて提案があり、了承された。

(第3回) -平成18年3月15日-

まず、委員長から、前回第2回の議事要旨の確認があった後、議題に沿って審議をした。要旨は以下の通りである。

(1) 平成18年度代表派遣について

会長あて提出のあった代表派遣会議案件について審議し、第3区分については、推薦された2件のうち、1件を適当と認めた。当該審議に基づき、平成18年度代表派遣に係る旅費の配分計画、平成18年度代表派遣実施計画及び平成18年度代表派遣について(4月～6月分)、委員会として決定するとともに、第1区分、第2区分及び第3区分のそれぞれについて、人数に制限を設ける旨新たに決定した。

(2) G8学会会議(4月19日、20日。モスクワ)について

当学会会長名でロシア科学アカデミー会長あて発出したG8学会会議開催期日についての変更検討の申出に対し、当初の予定とおりの4月19日、20日で開催する返答があった旨事務局から報告があった。

(3) 日本学会会議主催国際会議の申し込み締め切り期日見直しについて

当学会と学術研究団体との共同主催国際会議に係る申し込み締め切り期日見直しについて、提案者の伊藤早苗委員から説明を聴いた後、各委員が意見を述べたが、継続審議とすることとした。

(4) I A P 執行委員会について

当委員会から中西幹事及び河野委員が会長の代理として出席する I A P 執行委員会(3月27日、28日。於リオデジャネイロ)の議題について、事務局から説明があった。

(5) 国際学術団体及び国際学術協力事業(2005年度報告書)の執筆について

国際学術団体及び国際学術協力事業(2005年度報告書)の執筆について、各国内委員会委員長あて依頼した旨報告があった。

(6) 加入国際学術団体の見直しについて

事務局から参考資料の国際学術団体対応国内委員会委員数一覧(19期)について説明があり、加入国際学術団体の見直しについて、継続審議とする旨確認した。

### 3 幹事会提案案件

下記の案件を国際委員会委員長提案として幹事会に諮った。

(第9回幹事会(平成18年2月23日))

- ・国際委員会AASSREC等分科会の委員の候補者の決定について
- ・国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2006分科会委員の候補者の決定について
- ・国際委員会PSA分科会の委員の候補者の決定について

(第10回幹事会(平成18年3月23日))

- ・国際委員会ICSU等分科会、AASSREC等分科会、PSA分科会の委員の候補者の決定について
- ・国際委員会PSA分科会の委員の候補者の決定について
- ・第6回アジア学術会議(SCA Conference)の開催について

報	10
総 会	148

## 哲学委員会報告

平成18年3月20日  
委員長 野家 啓一

### 1 会議開催

平成18年3月3日（委員会における議決方法の特例を用いた議決）

### 2 報告事項

（委員会における議決方法の特例を用いた議決）—平成18年3月3日—

日本学術会議第19期会員、哲学研究連絡会議委員長の前田専学氏より本年5月31日～6月5日までハノイにおいてFISP（哲学諸学会国際連合）運営委員会が開催されるので、代表派遣の件について哲学委員会で検討してほしいとの要請があり、電子メールによる持ち回り会議の形で以下の3点について審議し、承認を得た。

#### （1）「代表派遣会議の申請」について

FISPはいまだ学術会議が認める正式の国際交流団体とはなっていないため、哲学委員会として国際交流委員会に代表派遣の申請を行うこと。

#### （2）「代表派遣者」について

国際交流委員会において申請が認められた場合には、哲学委員会としてFISP日本代表の役職にある前田専学氏を代表派遣者として推薦すること。

#### （3）「特任連携会員の推薦」について

前田専学氏は第20期の学術会議会員ではないため、代表として派遣する場合には、哲学委員会として同氏を「特任連携会員」として推薦する必要がある、申請の手続きをとること。

以上

報	11
総会	148

## 社会学委員会報告

平成18年3月21日

委員長 今田 高俊

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第3回）

### 2 報告事項

（第3回委員会）－平成18年2月13日－

#### （1）連携会員の選考経過について

第1部拡大役員会の報告が今田委員長よりあった。社会学関係では12名、3月中旬ごろ決定通知の予定。選考基準は（1）メリットベースで（2）若手・女性・地方を重視

#### （2）分科会設置について

分科会を設置すれば特認連携会員を決められ、そのもとに小委員会の設置もできる。設置に約2ヶ月かかることから、できるところから先行することで合意。白澤委員より社会福祉学研連についての情報提供があった。研連解散後、社会福祉学会連絡協議会を結成、これまでの活動をまとめて「社会福祉学研連10カ年の報告書」を刊行。

#### （3）学協会との連携

「挨拶文」（案）の一部修正を今田委員長に一任。

送付先団体リスト（協力学術団体登録済み計30団体+新規1）を事務局から提供。リストにない団体があるので追加することで合意した。送付は事務局に依頼。回答はメールもしくはFAXで。返信先は事務局、〆切3月末とする。

#### （4）社会学会大会での部会の後援

日本社会学会大会「少子高齢化」特別研究部会（2006年10月29日）への後援を了承した。落合委員より、研究活動委員会・会場校は了解済みの報告。後援依頼書は3ヶ月前までに学会長名で学術会議へ提出することが必要。落合委員に仲介を依頼した。

報	12
総会	148

## 史学委員会報告

平成18年3月9日

委員長 小谷 汪之

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第3回）

### 2 報告事項

（第3回委員会）— 平成18年2月13日—

（1）以下の四分科会の設置を幹事会に申請した。

- ① 博物館・美術館等における組織運営にかんする諸問題
- ② 歴史・考古学資史料の情報管理・公開にかんする諸問題
- ③ アジア研究・対アジア関係にかんする諸問題
- ④ 歴史認識と歴史教育にかんする諸問題

（2）日本歴史学協会・歴史教育特別委員会との共催で歴史教育にかんするシンポジウムを10月21日に開催する方向で準備に入ることに決定。

以上

報	13
総会	148

## 地域研究委員会報告

平成18年3月23日

委員長 油井 大三郎

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第3回）

### 2 報告事項

（第3回委員会）— 平成18年2月13日—

- （1） 連携会員で選出されなかった方々への対応については、選考基準を明らかにした上で、それぞれの推薦者が対応する。できるだけ早く、選出された方の公式リストを得るように努力する。
- （2） 分科会の名称および設立目的を検討した。地域研究基盤整備分科会のモデルを提示。分科会提案予定者は、このフォーマットで記述を2月中に油井委員長に提出する。

以上

報	14
総会	148

## 法学委員会報告

平成18年3月23日  
委員長 淡路 剛久

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第2回）

### 2 報告事項

（第2回委員会）— 平成18年2月13日 —

委員長の指名により、池田委員が幹事になった。あと1人の幹事は後日、委員長が指名することにした。

（1）委員会で今後とりあげるべきテーマおよび分科会設置について議論の結果、以下の分科会を設けることにした。

①「法学国際協会（IALS）」分科会

位田委員長、長内了委員\*（中大）

②「法学系大学院」分科会

田中委員長、淡路委員、磯村委員、位田委員、辻村委員、廣瀬委員、

③「法における公と私」分科会

広渡委員長、井田委員、井上委員、町野委員

④「IT社会と法」分科会

池田委員長、長谷部委員

⑤「リスク社会と法」分科会

長谷部委員長、浅倉委員

今後、連携会員を迎えて、以上のほかにも分科会を設置することとなるが、欠席の委員も含めて、委員はいずれかの分科会に所属することとした。

（2）学協会との連携のあり方について

基礎法関係の4学協会が連絡委員会を設置しており、当面、そこが開催する共催シンポジウムに協力しつつ様子を見ることにした。

（3）その他

日本学術会議会則 27 条 2 項にもとづき、「分科会の議決をもって委員会の議決とする」ことを確認した。

以上

報	15
総会	148

## 経済学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 鈴木 興太郎

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第2回）

### 2 報告事項

（第2回委員会）— 平成18年2月13日—

#### （1） IEA、IEHA に対する国内対応組織について

当委員会が対外的窓口をつとめるこれら2つの国際学協会への国内対応組織構築のための国内学会連合との連携について、鈴木委員長より説明があった。IEAの国内対応組織としては、従来どおり日本経済学連合を中心としたものが適切であり、そのために鈴木委員長が同連合と連絡を取り、組織作りを目指すことが了承された。また、IEHAについては、宮本委員より、IEHAへの対応に特化した連絡会である「日本経済史学会連合」（仮称）を、関係3～4学会で組織し、これに当たる計画であることが説明され、了解された。

#### （2） 分科会の発足について

当委員会に置かれる分科会の設置について、その考え方・方針および具体的な提案のやり方について鈴木委員長より説明があった。委員による話し合いの結果、①学部・大学院における経済学教育、②人口変動と経済、という2つが分科会のテーマとして相応しいということで意見の一致をみた。なお、分科会設置のための提案書の具体的内容や作成作業の担当・分担については、次回の委員会で協議することとする。

#### （3） 学術シンポジウムの企画について

前回委員会で決定された対外報告として取り上げるべき3つの課題（①人口減少社会における経済成長と技術革新、②超高齢化社会における社会ネットワークの構築、③世代間の利害対立とその調整）を考慮して、当委員会が企画する学術シンポジウムのテーマとして、「わが国における社会経済格差」を取り上げることが合意された。なお、こ

のシンポジウムは経済学的アプローチに特化せず、学際的なものを目指すことで意見の一致をみた。

(4) 第14回 IEHA 総会への代表派遣について

2006年8月にフィンランドのヘルシンキで開催される第14回国際経済史協会 (XIV Congress of the IEHA) に代表を送ることを決定した。

(5) その他

次回は、2007年4月10～12日の総会および第1部会の開催時に、出席できる委員の数の最も多い日時に開催することとした。

以上

報	1 6
総 会	1 4 8

基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同報告

平成18年3月23日

基礎生物学委員会委員長 黒岩 常祥

応用生物学委員会委員長 鷺谷いづみ

1 会議開催

平成18年2月13日（合同懇談会）

2 報告事項

（1）合同委員会開始時点において、定足数に達しないことが明らかとなったため、委員長の判断により、合同懇談会に変更することとした。

（2）本日の部会で審議された基礎生物学委員会・応用生物学委員会分科会の設置に関して、中心となって活動していただく会員を誰にするかについて意見交換を行い、その結果を取りまとめ、後日、メール等で再度調整を行い、決定することとした。

報	17
総 会	148

農学基礎委員会・生産農学委員会合同報告

平成18年3月23日

農学基礎委員会 真木太一

生産農学委員会 矢野秀雄

1. 会議開催

平成18年2月13日（第3回）

2. 報告事項

（第3回委員会）－平成18年2月13日－

（1）分科会について

下記のとおり、分科会を設置することとし、それぞれ責任会員を決めた。また、他の委員会と調整する必要がある分科会はそれぞれ担当が連絡調整を行うこととした。

A（農学基礎委員会）

農学分科会（武田）、育種学分科会（武田）、農芸化学分科会（磯貝）、  
農業経済学分科会（新山）、農業生産環境工学分科会（真木）、  
農業情報システム学分科会（野口）、地域総合農学分科会（真木）  
食の安全分科会（新山）

（生産農学委員会）

水産学分科会（山内）、畜産学分科会（矢野）、獣医学分科会（唐木）  
林学分科会（飯塚）、応用昆虫学分科会（山下）

（他委員会との調整）

（農学基礎）

海水科学分科会（唐木：3部と調整）、総合微生物科学分科会（春日：  
基礎医学：野本先生と調整）、遺伝資源分科会（武田、生物委：黒岩先  
生と調整）、植物科学分科会（磯貝、生物委：黒岩先生と調整）、ゲノム  
科学分科会（武田、生物委：黒岩先生と調整）、バイオインフォマティ  
ックス分科会（野口、生物委と調整）

(生産農学)

実験動物分科会 (林)、トキシコロジー分科会 (唐木、医学委と調整)

B (農学基礎)

水問題分科会 (真木)、農業と環境分科会 (真木)

(生産農学)

農学教育分科会 (山下)、人と動物の関係分科会 (林)

新興・再興感染症分科会 (春日、基礎医と調整)

また、責任会員が分科会の設置提案書を作成することとした。

それぞれ分科会の定員は、一律 10 名以内の会員及び 10 名以内の連携会員とした。(後、第二部内で調整を行い、20 名以内の会員及び連携会員とすることとした。)

報	18
総 会	148

健康・生活科学委員会報告

平成 18 年 3 月 20 日  
委員長 加賀谷 淳子

1. 会議開催

平成 18 年 3 月 15 日 (第 3 回委員会)

2. 報告事項

第 3 回健康・生活科学委員会 (平成 18 年 3 月 15 日)

1) 本委員会の下に設置される分科会 (案) について (報告)

以下の 8 分科会について設置責任会員・窓口委員会・提案内容について報告された。

パブリックヘルス科学分科会 (岸会員)、基礎医学委員会と合同

健康・スポーツ科学分科会 (加賀谷会員)

看護学分科会 (南会員)

生活科学分科会 (春日会員)

-----以上常設

生活習慣病対策分科会 (松澤会員)、臨床医学委員会が窓口

子どもの健康分科会 (加賀谷)

高齢者の健康分科会 (南)

禁煙社会の実現分科会 (大野)、歯学委員会と合同

2) 第一次連携会員の選考結果が公表され、本委員会の活動との関連が議論された。

3) 本委員会の今後の活動について

本委員会の目標とそれに向けた活動内容について意見交換を行った。分科会を中心とした領域別・領域横断別に政策提案や学術の成果を社会に広報する活動などがあげられた。活動を行うにあたって、次の二点が重要であるので、学術会議全体として早急に対処する必要があるとの意見が多く出された。

1. 学協会とのゆるやかな連携システムの構築 (予算や活動の担い手等の観点から)

2. 連携会員の委員会・分科会への参加

以上

報	19
総会	148

## 歯学委員会報告

平成18年3月22日

委員長 瀬戸 暁一

### 1 会議開催

平成18年2月13日（第3回）

### 2 報告事項

（第3回委員会）—平成18年2月13日—

#### (1) 国際団体への参画について

石倉副会長より国際団体への参画について意見を求められた。提示された国際団体の中では歯学に最も関係の深いUICCへの参画を申し入れたところ幹事会にて了承された。そこで基礎医学委員会にも属している米田先生と臨床では口腔外科の瀬戸を歯学委員会から推薦させていただくこととした。

#### (2) 分科会について

常置分科会としては、基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会の設置を申請した。責任者として、それぞれ米田、瀬戸、渡辺が担当するが、これらの分科会には会員全員が参画することとした。

分野別委員会の下の分科会としては、歯学教育分科会、禁煙社会促進分科会の設置を提案した。歯学教育分科会は医学、薬学にもそれぞれ教育分科会の提案もあると聞いているので、何らかの形で医学、薬学との連携を考えてもよいのではないかとの意見もあった。

#### (3) 今後の活動計画について

新生学術会議では、会員の選出が学協会の選出でなく、**cooptation**によるものであるが、学協会の協力をいかにするかについて早急に方向を打ち出して欲しいと企画委員会で要望している。歯学委員会としても協力学協会ならびにその連合体について検討しなければならない。

#### (4) その他

報	20
総 会	148

## 薬学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 鶴尾 隆

### 1 会議開催

平成18年2月24日（第2回）

### 2 報告事項

#### (1) 本日のシンポジウムについて

本日行われるシンポジウム「社会のニーズに応える薬剤師育成と医薬連携のあり方」について、橋田充国公立大学薬学部長会議議長より説明があった。

鶴尾委員長より、日本薬学会から演者への謝金の支払が可能である旨報告があった。

その必要がある場合は、橋田先生が日本薬学会事務局と相談の上手続きをすることが了解された。

また、今回のシンポジウムの報告書について、「学術の動向」、「ファルマシア」への投稿としても対応可能なように、橋田先生に原稿作成を依頼した。

#### (2) 今後の活動について

薬学委員会の下におかれる分科会について、以下のように担当者を決めた。

化学・物理系薬学分科会：柴崎、生物系薬学分科会：鶴尾、医療系薬学分科会：眞弓、実験動物分科会：野本、ゲノム科学分科会：柴崎、トキシコロジー分科会：眞弓、バイオインフォマティクス分科会：柴崎、臨床試験・治験推進分科会：鶴尾、薬学教育分科会：眞弓

鶴尾委員長より、前期の3年間の活動方針及びとりまとめ役として

- ・ 薬学部6年制の問題：眞弓
- ・ 専門薬剤師をどのように考えていくのか：鶴尾
- ・ 日本における創薬力を高めるにはどうしたらよいか。柴崎

が提案され、意見交換を行った上承認された。今年からこの順にテーマとして取り上げる事が了承された。

#### (3) その他

日本薬学会との連携をとるため、日本薬学会への日本学術会議の窓口として、鶴尾委員長、あるいは柴崎委員を日本薬学会事務局に推薦する事が承認された。

報	21
総会	148

## 物理学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 永宮 正治

### 1. 会議開催

平成18年2月14日（第2回）

### 2. 報告事項

（第2回委員会）－平成18年2月14日－

#### (1)物理学関連の連携会員の選考の現状

連携会員の選考の現状について委員長より報告があった。

#### (2)分科会について

IUPAP 分科会は物理学委員会と総合工学委員会との合同分科会として設置、委員長は榊委員とする。その議決は、物理学委員会委員長と総合工学委員会委員長の両委員長の判断により、そのまま承認するか、あるいは、親委員会で再審議するかを決定するものとする。ただし、迅速な対応を踏むため、議決内容については、IUPAP 分科会委員長が物理学委員長に報告を行い、物理学委員会委員長は総合工学委員会委員長に連絡、協議することとする。

地球惑星科学での国際対応分科会についても、物理学委員会がサブとしてコミットする方針を決め、これを地球惑星科学委員会に提案することとなった。

専門別の分科会についての当面の世話人を決定した。

#### (3)今後の諸活動について

今後の物理委員会の役割について自由討論が行われ、向こう5－6年のタイムスケールで物理学委員会としての行動計画案を各自が提案し、Eメール会議方式を含めて議論することとなった。

#### (4) 審議付託の件

東京大学物性研究所評議員候補者の推薦については、連携会員の選出状況にも鑑み、関連委員で合議して、原案をつくることとした。

報	22
総会	148

## 地球惑星科学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 入倉 孝次郎

### 1. 会議開催

平成18年2月 2日 (第3回)

平成18年2月25日 (第4回)

平成18年3月16日 (第5回)

### 2. 報告事項

(第3回委員会) –平成18年2月2日–

#### (1)国際対応の分科会について

地球惑星科学委員会の下に国際対応分科会委員会をおくこととした。

IGBP については環境学委員会にまかせることとし、入倉委員長が環境学委員会委員長と相談することとした、。COSPAR については、今後、物理委員会のもとにおくことを検討することとした。

第1回国際対応分科会の開催日を決定した。

来年度については、暫定連携会員に、1年間の活動方針（来年度の国際委員会の活動、国内委員会の活動、代表派遣の実施計画）の情報収集を行うこととした。

国際対応分科会の下に小委員会を置くこととし、小委員会の数、構成などについては活動内容に応じて、今後考えることとした。

#### (2)分野別委員会について

分野別委員会について意見が交換された。

#### (3)その他

小杉健郎暫定連携会員の3月代表派遣を承認した。

(第4回委員会) -平成18年2月25日-

(1)報告事項

第1次選考の連携会員の状況についての報告、課題別委員会は10程度が目安となっている旨の報告があった。

(2)来年度以降の体制について

国際対応分科会の役割は、各国際組織の活動予定、学術会議への要望などを聞くこととする。国際対応には、色々なやりかたがあるが、当面1つの国際対応分科会で活動し、様子を見ることとし、個別の活動は小委員会で行ってもらったこととした。

分科会の議決は分野別委員長の承認を得て決定とする。

(3)国際惑星地球年 IYPE

国際惑星地球年について意見が交換され、その他の IPY, EGY, IHY などもあることが確認された。

(4)来年度の国際派遣について

資料の準備は各団体で行い、派遣予定者の順位もつけてもらうこととした。内容のチェックは当該委員会担当の会員が行う。

(第5回委員会) -平成18年3月16日-

(1)国際対応分科会について

国際委員会について河野委員より報告がされた。

入倉委員長よりWCRPは国際対応分科会で対応することとなっていたが、安成委員よりIGBPと一緒にやりたいとの提案があった旨の報告がされた。環境学委員会を主とし、地球惑星科学委員会を副とし、WCRP/IGBPとして一緒に分科会とすることを承認した。

COSPARは物理学委員会と合意の上、従来通り地球惑星科学委員会の下に置くこととする。

各国際組織毎に小委員会をつくるという方針を確認、具体案が検討された。

(2)分科会について

学会との関係や、これからの地球惑星科学の在り方、などを検討していくためという切り口で分科会を設けるべきか議論された。次回の総会までに各自案を出し合い4月の早い時期に分科会を発足できるようにすべきという意見でまとまった。

(3)会員と連携会員の任務と役割について

会員と連携会員の任務と役割について議論がなされ、分科会を立ち上げ、早い時期

に会員と連携会員からなる委員会を開催することとした。

報	23
総会	148

## 情報学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 坂内 正夫

### 1. 会議開催

平成18年2月 6日 (第2回) 19:00~21:00 参加10名

平成18年3月14日 (第3回) 18:30~20:30 参加12名

### 2. 報告事項

(第2回委員会) -平成18年2月6日-

1) 副委員長 村岡洋一委員、幹事 土井美和子委員を委員長が指名し、了承した。

2) 国際対応 (分科会) について

・学術会議として参加している CODATA 対応は、国内関連や他の国際対応と一括して「情報データベース分科会 (仮称)」を設定し、情報学委員会として対応することとした。

・暫定連携委員である岩田修一氏他2名の方をメンバーとした。当面の会議への派遣依頼は、長島横国大教授とした。情報学委員会メンバー・連携会員にも参加を募っている。

(第3回委員会) -平成18年3月14日-

1) 情報学委員会分科会 (3/23 現在)

- ・「情報将来社会の光と影」分科会 (仮称) (担当: 青山、坂村、岡部、坂内)
- ・「情報データベース分科会」 (仮称) (担当: 坂内)
- ・2部提案の「バイオインフォマティクス分科会」に共同参加 (担当: 斎藤)

2) 情報学委員会として検討すべき課題と分科会の設定について

「ユビキタス空間情報社会基盤」分科会 (岡部委員説明)、  
「情報ネットワーク基盤」分科会 (青山委員説明) について議論した結果、両提案はまとめて、「情報将

来社会の光と影」分科会（仮称）として提案することとした。「社会や人間への影響を、ユビキタスやブロードバンドを含む、具体的ないわゆる IT、ITC やセキュリティの研究開発、技術進展の動向を的確に把握しつつ分析し、あるべき技術、社会、制度、意識や啓蒙の方向を提言する。」ことを目指す。（担当：青山、坂村、岡部、坂内でまとめる）

- 2部提案の「バイオインフォマティクス分科会」には、共同参加する。ただし設立の目的を「政策提言・社会提言」でなく「融合学術分野の確立」とすべきとの意見が出された。（担当：斎藤）
- 前回、事項承認の「情報データベース分科会」は、名称も含め、国際対応、CODATA 対応も含めて更に具体化する。（担当：坂内）
- 「情報教育のあり方」の議論については、論点を明確にし、メーリングリスト上で、議論継続。（担当：村岡）

報	24
総会	148

## 総合工学委員会報告

平成18年3月10日

委員長 後藤 俊夫

### 1. 会議開催

平成18年2月28日（第2回）

### 2. 報告事項

（第2回委員会）－平成18年2月28日－

#### （1）前回議事録確認

#### （2）拡大役員会報告

委員長から平成18年1月26日開催の第3部拡大役員会について報告があった。

#### （3）第1次連携会員の選考状況報告

委員長から第1次連携会員の選考状況とスケジュールについての概要説明があった。

#### （4）学術会議主催・後援の学協会企画シンポジウムについて

・原子力総合シンポジウム、FMESシンポジウムについて、主催希望の原子力総合シンポジウムに関しては条件付きながら基本的に承認、後援希望のFMESシンポジウムに関してはそのまま承認した。なお、主催、後援などに関する学術会議としての考え方を整理すべきであるとの意見が提示された。

・その後、FMESシンポジウム責任者から後援を主催に変更して欲しいとの要請があり、メール審議の結果、原子力総合シンポジウムと同じ扱いとすることが了承された。

#### （5）分科会の設置等について

・総合工学委員会関連の国際対応分科会として、世界工学団体連盟(WFEO)は土木工学・建築学委員会(主担当)との合同、国際光学委員会(ICO)は総合工学委員会単独、国際自動制御連盟(IFAC)は電気電子工学委員会との合同で設置することが事後承認された。また、国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)について物理学委員会との合同で

IUPAP 分科会を作ること、桑野委員を分科会委員に推薦することが承認された。

関連して、平成18年度の海外代表派遣会議と派遣候補者の申請を3月6日までに行うことが確認された。

・分野別委員会関連の分科会として、「イノベーション力分科会(仮称)」を総合工学委員会と機械工学委員会が合同で設置する準備を進めること、「応用物理・工学基盤分科会(仮称)」と「エネルギー・資源分科会(仮称)」を総合工学委員会が主体となって設置する準備を進めることが承認された。原案がまとまれば4月に開催予定の第3部拡大役員会に諮り、早期設置をめざすこととした。また、他に提案されている分科会についても順次検討を進めることとした。

報	25
総会	148

## 土木工学・建築学委員会報告

平成18年3月23日

委員長 村上 周三

### 1. 会議開催

平成18年1月24日（第3回）

平成18年2月28日（第4回）

### 2. 報告事項

（第3回委員会）－平成18年1月24日－

#### (1) 課題別委員会の提案について

「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築」および「子どもの心身活性化国家戦略基本方針策定」の説明がなされ、2 課題を申請することを了承した。

#### (2) 連携会員の推薦について

第2回の分野別委員会で紹介された連携会員候補者のうち、村上委員長、池田委員が協議の上 12 名を選考委員会に推薦することとした。

#### (3) 国際対応のための体制整備

IUTAM および WFEO とも分科会を設置することが了承された。

#### (4) その他

その他の事項に関して下記の意見が出された。

- ・ 学術会議として継続して開催して来た「環境工学連合講演会」に関しては土木工学・建築学分野別委員会および環境工学分野別委員会が共同で受け皿を作ることにする。
- ・ 課題別特別委員会の課題は、社会が学術会議に期待するような課題、学術会議にふさわしい課題を選定すべきであり、他の機関が既に実施しているものと重複は避けるべきとの意見があった。

（第4回委員会）－平成18年2月28日－

(1) 「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会」および「子どもの心身活性化国家戦略基本方針策定」が幹事会で了承されたことの報告があった。シンポジウム「技術

者の倫理と社会システム」は3月30日に開催されることが報告された。

## (2) 設置すべき分科会について

分科会のあり方について他部の動向についての情報提供があった。議論の結果、土木工学・建築学委員会では、学術の立場からの活動、学会を超えた交流と活動、社会を意識した活動、を重視することとした。建設と社会(仮称)は重要であり、ここでは公共性の概念、技術政策などについてテーマを絞って議論すべきであるとの方向性を得た。環境については、環境学委員会との連携が大切であり、環境学委員会の審議状況を見て結論を出すこととした。災害については本委員会の課題として重要であるとの認識が示されたが、課題別委員会が発足したことから今年度は分科会は設置しないこととした。

分科会は次回委員会で決定する。

## (3) その他

主催シンポジウムに際して、会員または連携会員の挨拶については、キャビテーションシンポジウムは池田会員が挨拶する。混層流シンポジウム及び構造工学シンポジウムについては、連携会員も含めて挨拶の人選をする。

報	26
総会	148

## 科学者の行動規範に関する検討委員会報告

平成18年3月23日

委員長 浅島 誠

### 1. 会議開催

平成18年 2月10日 (第3回)

平成18年 2月21日 (第4回)

平成18年 3月17日 (第5回)

### 2. 報告事項

(第3回委員会) -平成18年 2月10日-

#### (1) 前回議事要旨(案)の確認

前回委員会の議事要旨が了承された。

#### (2) 科学者の行動規範について

1) 井上委員より、本委員会のミッションについて説明が行われた。

2) 科学者の行動規範に関する検討委員会の今後の進め方について(検討メモ)について意見交換が行われた。

各項目の文言についての意見交換が行われた。各項目を科学者の組織や科学者コミュニティに対する提言、科学者自身を律するもの等に構造を整理することとした。

2月の臨時総会で、審議の途中経過を報告し、4月の総会で、行動規範の原案を提示し、了承を得られたものについて各学協会に意見を求めることとした。

この議論は科学者コミュニティ全体あるいは科学者に対しての日本学術会議からのメッセージであるという前文を入れることとした。

#### (3) その他

行動規範の作成作業について、ワーキンググループの設置が了承された。ワーキンググループの委員長として笠木副委員長が任命され、人選については副委員長に一任された。次回日程について確認された。

(第4回委員会)－平成18年 2月21日－

(1) 前回議事要旨(案)の確認

前回委員会の議事要旨が了承された。

(2) 臨時総会での報告について

浅島委員長から、臨時総会における科学者の行動規範に関する検討状況の説明について報告された。

(3) 科学上の不正行為防止に関する OECD の活動について

岩渕文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官補佐から、経済協力開発機構(OECD)における科学上の不正行為防止に関する活動について紹介の後、意見交換が行われた。

(4) 科学者の行動規範について

1) 札幌委員から、最近の科学技術倫理分野における研究の動向などについて紹介された後、意見交換が行われた。

2) 笠木副委員長(行動規範作業分科会委員長)から、行動規範の作成方針について説明がなされた後、行動規範に盛り込むべき事項等について意見交換が行われた。

(5) その他

1) 次回日程について確認された。また、委員会を追加開催することとした(4月5日(水)16時～17時半)。

2) 行動規範作業分科会について、笠木委員長から分科会委員は御園生幹事、井上委員、猿田委員、札幌委員になったことが報告された。

3) 科学者憲章の見直し作業について、憲章作業分科会(ワーキンググループ)が設置されることとなった。委員長として佐藤幹事、委員として山岸委員、鷲谷委員、入倉委員が指名された。

(第5回委員会)－平成18年 3月17日－

(1) 前回議事要旨(案)の確認

前回委員会の議事要旨が了承された。

(2) 行動規範の検討状況について

笠木副委員長(行動規範作業分科会委員長)から、前回会議を踏まえ検討を加えた行動規範(案)について資料(会長書面文、行動規範暫定版、科学者倫理の遵守に関する要請)により説明後、意見交換が行われた。意見を踏まえ、行動規範作業分科会を中心に整理しメールで意見を確認することとした。

(3) 総合科学技術会議の動向について

総合科学技術会議「研究上の不正に関する適切な対応について」（平成18年2月28日）について、渡邊内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付参事官から説明後、質疑応答があった。

(4) その他

次回日程について確認された。

報	27
総会	148

## 学術とジェンダー委員会報告

平成18年3月23日

委員長 江原 由美子

### 1. 会議開催

平成18年 2月 3日 (第1回)

平成18年 3月15日 (第2回)

### 2. 報告事項

(第1回委員会) -平成18年2月3日-

(1) 開会及び出席者紹介

(2) 委員長、副委員長、幹事の選出

委員長に江原委員が選出された。委員長から、副委員長・幹事の指名に先立ち本課題別委員会の設置趣旨を確認したい旨の発言があり、設置提案者の一人である辻村委員から設置提案書に基づき説明が行われた。副委員長に後藤委員、幹事に大沢委員及び井谷委員が選出された。

(3) 以下の論点について意見交換を行った。

**Gender** の訳語等、学術の各分野におけるジェンダー概念の理解、性差に着目した研究の動向、特に理工系の学術にとってジェンダーに敏感になることの学問的メリット、総合的なスポーツ学にとってのジェンダー概念の意味、ジェンダー概念に対するバックラッシュに対処する必要性等。

(4) 今後の進め方について意見交換を行った。

(ア) 委員会は年6回程度開催することとし、当面各分野でのジェンダー及びセックスの理解についてヒアリング活動を行うこと、当面は委員からヒアリングする等の意見があった。ヒアリング対象分野について意見を委員長へ連絡することとなった。

(イ) 最終報告までに2回程度のシンポジウムを行い、テーマは、1回目は各分野でのジェンダー及びセックスの理解、2回目は、各分野がジェンダー視点を取り入れることによる学術の発展の可能性をテーマとする等の意見があった。

(ウ) 委員会委員の補充について意見交換があり、候補者を委員長に推薦することとした。

(5) 次回の日程が確認された。

(第2回委員会) -平成18年 3月15日-

(1) 前回議事要旨(案)について了承した。

(2) 前回以降の動きについて、江原委員長から委員の追加(東村、遠山)及び学術調査員について報告があった。理工系分野における動向について、後藤副委員長から男女共同参画学協会連絡会報告(平成16年3月)及び応用物理学会のシンポジウムについて報告があった。

(3) 今後の活動について、江原委員長から話題提供として、ジェンダー概念、ジェンダー学の意義、対外報告書のイメージ等について説明があり、それに基づく自由討論が行われた。

(4) シンポジウムについて、第1回目は、今次会議の議論を踏まえ平成18年度日本学術会議主催公開講演会に当委員会と男女共同参画分科会の共同で申請することとなった。

(5) ヒアリング計画について、今回は桜井委員及び東村委員から話題提供を行うこととなった。

(6) 委員の追加について意見交換があり、候補者の調整を委員長が行うこととなった。次回の日程が確認された。

報	28
総会	148

## 政府統計の作成・公開方策に関する委員会報告

平成18年3月23日

委員長 樋口 美雄

### 1. 会議開催

平成18年 2月15日（第2回）

平成18年 3月15日（第3回）

### 2. 報告事項

（第2回委員会）－平成18年 2月15日－

- （1）前回議事要旨（案）について了承された。
- （2）事務局から、配布資料の紹介後、政府統計の作成・公開方策に関する委員会報告書骨子案について説明があった。
- （3）報告書骨子案に基づき、政府統計の作成・公開方策について審議が行われた。
- （4）委員長から、次回委員会を3月15日（水）午前10時から開催する予定であることが確認された。委員会報告書案については、3月上旬に委員に送付し、委員からの意見に基づいて修正した上で、次回委員会で審議することとした。
- （5）委員長から、4月初めに日本学術会議で政府統計に関するシンポジウムを開催する計画であることが紹介された。

（第3回委員会）－平成18年 3月15日－

- （1）前回議事要旨（案）について了承された。
- （2）政府統計の作成・公開方策に関する委員会報告書案について審議を行った。
- （3）委員会での審議を元に報告書案を修正し、第10回幹事会（3月23日）に提案することになった。
- （3）委員長から、5月15日にシンポジウムを開催する案が紹介された。また、4月19日に経済学委員会が主催するシンポジウムについて紹介があった。

☆ 平成18年3月23日に、対外報告「政府統計の改革に向けて－変革期にある我が国政府統計への提言－」を発表した。

報	29
総会	148

## 学術・芸術資料保全体制検討委員会報告

平成18年3月23日

委員長 青柳 正規

### 1. 会議開催

平成18年3月6日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回委員会）－平成18年3月6日－

#### （1）出席者紹介

議事に先立ち、出席者の紹介が行われた。

#### （2）委員長、副委員長、幹事の選出

委員長に青柳正規委員、副委員長に木下尚子委員、幹事に前田富士男委員、馬渡駿介委員が選出された。

#### （3）審議事項、今後の進め方等について

- 1) 木下副委員長から設置提案書により本委員会の設置趣旨について説明があった。前田幹事から「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律案」について説明があった。
- 2) 本委員会の審議方針と成果の提示について、本年中に6回の委員会を開催し、その成果を12月に意思表出として提示し、また可能であればシンポジウムなどを開催する予定が提案され、承認された。
- 3) 本委員会の審議事項等について、委員間で自由な議論が行われ、議論をもとに、①資料保全制度、②対象資料の領域設定、③市場化テストほかにおける法的問題、④指定管理者制度の実情、⑤資料保全に対する日本学術会議の取り組み、の5つの検討課題が提示され、承認された。

この検討課題に即して、本年5月に第2回、6月に第3回の委員会を開催し、第2回委員会では、神田委員、白藤委員、前沢委員、山折委員の報告・提言をもとに指定管理者制度の実情を多面的に検討、第3回委員会では、樺山委員、佐野委員、馬渡委員の報告・提言にもとづき、資料管理の組織・制度を検討することにした。

報	30
総会	148

## 地区会議報告

平成18年3月23日

科学者委員会委員長 浅島 誠

### ○ 代表幹事会報告

委員長 浅島 誠

#### 1 会議開催

日時：平成18年2月13日（月） 17：45～19：00

場所：日本学会議 5-B会議室（5階）

議題：① 地区会議代表幹事会の幹事互選（2名）

② 地区会議運営要綱の改正案

③ 平成18年度事業計画

④ 地域振興フォーラムの今後のあり方

⑤ その他

### ○ 北海道地区会議報告

代表幹事 山内 皓平

#### 1 報告事項

##### (1) 学術講演会の実施

テーマ：「学術研究と地域振興－新生日本学会議の役割－」

日時：平成18年3月14日（火） 13：00～16：00

場所：北海道大学

#### 2 会議開催

日時：平成18年3月14日（火） 16：15～17：45

場所：北海道大学

議題：① 平成17年度事業報告について

② 平成18年度事業計画（案）について

③ 地区会議ニュースの発行について

○ 東北地区会議報告

代表幹事 野家 啓一

1. 「科学者との懇談会」及び「公開学術講演会」の開催

平成18年3月7日（於：秋田大学）

2. 報告事項

日本学術会議東北地区会議の主催による「科学者との懇談会」及び「公開学術講演会」を秋田大学において以下の通り開催した。

[科学者との懇談会]

日本学術会議東北地区会議野家啓一代表幹事挨拶

日本学術会議黒川清会長挨拶

秋田大学三浦亮学長挨拶

日本学術会議の活動報告：野家啓一代表幹事

日本学術会議各部等の活動報告

第1部：野家啓一会員

第2部：大隅典子会員

第3部：栗原和枝会員

懇談及び質疑応答

[公開学術講演会]

開会挨拶：野家啓一（日本学術会議東北地区会議代表幹事）

講演「学術会議とは何か？」

黒川清（日本学術会議会長）

講演「東北大学における産学官連携の取組み」

庄子哲雄（東北大学理事）

講演「秋田県の産業振興の展望について」

中西大和（秋田県産業技術総合研究センター所長）

講演「秋田大学地域共同研究センターから見た地域の産学官連携について」

玉本英夫（秋田大学地域共同研究センター長）

質疑応答

閉会の挨拶：谷口敏幸（秋田大学理事）

○ 中部地区会議報告

代表幹事 後藤 俊夫

1. 地域振興フォーラム開催

日 時： 平成18年3月3日（金）：13:00～17:30

場 所： 金沢大学

テーマ： 大学の知的資源と地域イノベーション

プログラム：

挨拶：黒川清日本学術会議会長

馳浩文部科学副大臣

第1部：講演

阿部博之総合科学技術会議議員、徳永保文部科学省大臣官房審議官、林勇  
二郎金沢大学学長による3件の講演

第2部：パネルディスカッション

産学官の6名のパネリストによる討論

参加者：延べ約300名

○ 近畿地区会議報告

代表幹事 今中 忠行

1 報告事項

(1) 学術講演会の実施

テーマ：生活に生きる科学技術

日 時：平成18年3月18日（土） 13:30～16:40

場 所：ホテルピアザびわ湖6Fクリスタルルーム

○ 中国・四国地区会議報告

代表幹事 武田 和義

1 報告事項

(1) 学術講演会の実施

テーマ：「学術と産学官連携の必要性について」

日 時：平成18年3月2日（火） 13：00～16：30

場 所：岡山大学創立50周年記念館 多目的ホール

2 会議開催

日 時：平成18年3月2日（火） 16：40～17：30

場 所：岡山大学

議 題：① 平成17年度事業報告について

② 平成18年度事業計画（案）について

③ 地区会議ニュースの発行について

○ 九州・沖縄地区会議報告

代表幹事 今西 裕一郎

1 報告事項

(1) 科学者との懇談会の実施

日 時：平成18年3月10日（金） 11：00～12：00

場 所：鹿児島大学事務局会議室

議 題：① 日本学術会議の活動

② 日本学術会議報告

各部・各常置委員会・特別委員会

③ 質疑応答・要望事項

(2) 学術講演会の実施

テーマ：「食の安心・安全—大学が果たす役割と方向性—」

日 時：3月10日（金） 14：00～17：30

場 所：鹿児島大学郡元キャンパス稲盛会館

報	31
総会	148

## 科学者委員会広報分科会報告

平成18年3月24日

委員長 浅倉 むつ子

### 1 会議開催

平成18年2月24日（金）（第6回）

### 2 報告事項

平成18年2月24日（金）（第6回）

#### (1) 英文リーフレットについて

事務局より、英文リーフレットについては、日本語の原稿が作成出来たことが報告された。また、企画競争によりデザインを選定するにあたり、紙質はスウェーデン王立協会のリーフレットを参考に検討することが了承された。

#### (2) その他

事務局より、後藤委員が3月までで交代することが報告された。

次回以降の会議については、3月は30日（木）14:00から、4月は20日（木）17:00から、また、5月は24日（水）17:00からそれぞれ開催することが確認された。

報	3 2
総 会	1 4 8

## 科学者委員会男女共同参画分科会報告

平成18年3月24日

委員長 辻村 みよ子

### 1 会議開催

平成18年2月13日（月）（第1回）

### 2 報告事項

平成18年2月13日（月）（第1回）

#### (1) 役員の選任

委員長として辻村委員が互選された。また、副委員長として小舘委員、幹事として五十嵐委員と今榮委員が選任された。

#### (2) 今後の活動について

・辻村委員長より、今後の活動内容として、学術分野における男女共同参画の現状分析や調査、関係者からの資料収集、意見聴取を行うとともに、シンポジウムや講演会などを開催しつつ、3年後を目途に報告書を取りまとめたかどうかとの提案がなされた。

・各委員からは、研究者の生活面からも検討することが必要である、企業での取り組みを把握することが必要である、専門的知識の必要な職業人において課題となっている事柄を考慮したらどうか、外国におけるガイドラインも考慮することが必要である、などの意見が出された。

・18年度の学術会議主催公開講演会に、課題別委員会である「学術とジェンダー委員会」と共同で応募することが了承された。

・次回の分科会では、大学における現状と取り組みの事例を紹介することとし、辻村委員長・大隅委員と今榮幹事がそれぞれ東北大学、名古屋大学について報告することとした。

#### (3) その他

次回は、4月の総会1日目（4/10）の昼の時間帯に開催する。

報	33
総会	148

## 科学者委員会学術体制分科会報告

平成18年3月23日

委員長 金澤 一郎

### 1. 会議開催

平成18年 3月16日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回委員会）－平成18年3月16日－

（1）開会及び出席者紹介

（2）第19期学術体制常置委員会の説明

第19期日本学術会議学術体制常置委員会委員長の金澤委員から第19期学術体制常置委員会の活動と第20期への申し送り事項について説明があった。

（3）委員長、副委員長、幹事の選出

委員長に金澤委員、副委員長に内田委員、幹事に谷口委員及び稲崎委員が選出された。

（4）以下の論点について意見交換を行った。

人文科学や長期的な基礎的・基盤的研究の科学・学術における重要性の位置づけと保持・発展の仕組み、科学研究費補助金関係の具体的事項についての対応、日本学術振興会との協力関係、研究環境としての研究支援スタッフの雇用形態や多様性や育成（特に人文社会分野）、女性研究者の参画方策、研究所の研究設備の老朽化、諸機関の提言を含めた提言の集約有効化、私学を含めた大学の方針、基礎研究とプロジェクト研究のバランス、政策的な文系研究の方向性、実践的研究への支援、ポスドクや研究者のキャリアパスや民間・行政も含めた流動性、等。

（5）次回はトピック毎の意見交換をすることとした。トピックの割り振りは以下のとおり。①（広い意味での）研究環境：研究者養成、研究費、研究支援スタッフ、研究施設、②学術研究体制の在り方、③大型科学計画。

報	34
総 会	148

## 科学と社会委員会科学力増進分科会報告

平成18年3月23日

委員長 毛利 衛

### 1 会議開催

平成18年3月6日（月）（第3回）

### 2 報告事項

（第3回委員会）－平成18年3月6日（月）－

#### (1) ミュージアム・レクチャー・サーキットについて

2月21日（火）に台東区立黒門小学校において開催したミュージアム・レクチャー・サーキットについて、長谷川委員から報告があった。

#### (2) サイエンスカフェについて

開催場所、講師の決定状況等について、説明があった。

#### (3) シンポジウムについて

開催時期を9月とし、「コミュニケーション」をキーワードとして、企画案をまとめることとした。

#### (4) 対外報告について

「サイエンスウェブ」編集長寺門和夫氏に対しヒアリングを行い、メディアと学術会議との連携の可能性について、意見交換を行った。

#### (5) その他

3月4日（土）に学術総合センターにおいて開催されたシンポジウム「－科学技術リテラシー像策定に向けて－ 21世紀を豊かに生きるために」について、北原委員より報告があった。

報	35
総会	148

## 国際委員会国際会議主催等検討分科会報告

平成18年3月20日

委員長 石倉 洋子

### 1 会議開催

平成18年3月1日（水）（第3回） 於：6-A会議室（2）

### 2 報告事項

（第3回）－平成18年3月1日－

平成20年度共同主催申請国際会議について申請学会に対しヒアリングを行った。

報	36
総会	148

## 国際委員会日英学術交流分科会報告

平成18年3月20日

委員長 岸 輝 雄

### 1 会議開催

平成18年2月3日（金）（第1回） 於：5-A会議室（1）

### 2 報告事項

（第1回）－平成18年2月3日－

- (1) 委員の互選により、岸委員が委員長に選出された。
- (2) 竹村委員により第2回ワークショップの概要（案）について説明がなされた。
- (3) 委員間で第2回ワークショップの進め方について議論がなされた。

日本学術会議－英国王立協会共同ワークショップ「ナノテクノロジーの健康・環境・社会影響に関する日英合同ワークショップ」の開催（報告）

期 間：2月23日（木）

場 所：東京ビッグサイト

標記ワークショップには、日本側は黒川清会長、石倉洋子副会長（国際活動担当）、岸輝雄第3部会員をはじめとして約20名、英国側は Mark Welland アバディーン大教授、Anthony Seaton ケンブリッジ大教授をはじめとして約15名、オブザーバーなどを含めた全体では約80名が参加した。

ワークショップでは、「健康・環境影響に関する課題」、「日英アカデミー協力」などを主なテーマに講演、ラウンドテーブルディスカッション等を行い活発な議論が交わされた。

本ワークショップの結果を踏まえ、後日、レポートを取りまとめる予定。

報	37
総会	148

## 国際委員会アジア学術会議分科会報告

平成18年3月20日

委員長 石倉 洋子

### 1 会議開催

平成18年1月24日（火）（第5回） 於：5-A会議室（1）（2）

### 2 報告事項

- (1) SCA役員等の出席と、インド及びベトナム等からの招へい者13名を招き開催されたSCA準備会合と合同で開催された。
- (2) ベトナムが第5回アジア学術会議の総括報告を行った。
- (3) 第6回アジア学術会議案をインドが紹介した。
- (4) インド作成の会議案については、更に詳細を検討する必要がある旨認識された。
- (5) 第6回アジア学術会議へのオブザーバーは日本からの推薦のみであった。  
開催国インドについては、外交団などへのオブザーバー招へいが喚起された。
- (6) 第6回アジア学術会議で発表される予定のジョイント・プロジェクトについて、それぞれの責任者が説明し、出席者から質問及び要望が出された。

報	38
総会	148

国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する  
国際会議 2006 分科会報告

平成18年3月20日  
委員長 黒川 清

1 会議開催

平成18年3月1日（水）（第1回） 於：会長室

2 報告事項

（第1回）－平成18年3月1日－

- （1）互選により、委員長に黒川会長が選出された。
- （2） 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2006 の今後の進め方、プログラム、スケジュール等について審議された。

報	39
総会	148

## 国際委員会 ICSU等分科会報告

平成18年3月20日  
委員長 土居 範久

### 1 会議開催

平成18年3月15日（水）（第1回） 於：5-A会議室（1）

### 2 報告事項

（第1回）－平成18年3月15日－

- （1）互選により、委員長に土居範久委員が選出された。
- （2）黒川会長より、以下の事項について説明があった。
  - ・ ICSU（国際学術会議）、IAP（国際問題に関するインターアカデミーパネル）、IAC（インターアカデミーカウンシル）の概要
  - ・ 第19期国際協力常置委員会企画分科会活動報告
  - ・ IAC 理事会（2006年2月1日、2日、アムステルダム）報告
  - ・ IAP 執行委員会（2006年3月27日、28日、リオデジヤネイロ）概要
  - ・ The 14<sup>th</sup> Session of the UN Commission on Sustainable Development (CSD)-（2006年5月14日、ニューヨーク）へのディスカッションペーパーについて
  - ・ 第1回 ICSU 電子会議（財務総会）開催について（2006年6月30日）
- （3）2008年及び2011年 ICSU 総会開催機関の立候補依頼に対し、今回は見送ることとなった。
- （4）TWAS 10<sup>th</sup> General Conference & 17<sup>th</sup> General Meeting and TWNSO 9<sup>th</sup> General Assembly（2006年9月2日～6日、リオデジヤネイロ）に、日本学術会議より代表を派遣する方向で調整を行なうこととなった。
- （5）IAP 声明（進化の教育）訂正版への意見照会に対し、支持する旨 IAP に連絡することとなった。
- （6）平成18年度代表派遣会議及び代表派遣候補者の推薦について、IAP 総会（2006年12月、アレクサンドリア）への派遣を申請することとなった。

報	40
総 会	148

## 国際委員会 A A S S R E C 等分科会報告

平成18年3月20日

委員長 小 谷 汪 之

### 1 会議開催

平成18年2月6日（月）（第1回） 於：5-A会議室（1）

平成18年3月14日（火）（第2回） 於：5-A会議室（1）

### 2 報告事項

（第1回）－平成18年2月6日－

- （1） 互選により、委員長に小谷汪之委員が選出された。
- （2） 小谷委員長より、AASSREC の組織、第16回 AASSREC 総会等について概要について説明があった。
- （3） 小谷委員長より、AASSREC 理事会（2006年秋開催予定）の概要について説明があり、議論が行なわれた。
- （4） 伊藤委員より、第17回 AASSREC 総会（2007年9月名古屋にて開催予定）の開催計画について説明があり、議論が行なわれた。

（第2回）－平成18年3月14日－

- （1） 今回から新たに加わった小松照幸委員の紹介があった。
- （2） 小松委員より IFSSO（国際社会科学団体連盟）及び ISSC（国際社会科学協議会）の概要について説明があった。
- （3） 小谷委員長より、AASSREC 理事会（2006年9月日本学術会議にて開催予定）の AASSREC 役員との日程調整の状況報告があった。
- （4） 第17回 AASSREC 総会（2007年9月名古屋にて開催予定）の開催計画について審議された。

報	41
総 会	148

史学委員会国際歴史学会議等分科会報告

平成18年3月9日

委員長 木畑 洋一

1 会議開催

平成18年3月3日（第1回）

2 報告事項

（第1回委員会）— 平成18年3月3日—

（1）役員選出

分科会委員長に木畑洋一、副委員長に小谷汪之、幹事に柴宜弘の各氏を選出した。

（2）当分科会のもとに、国際歴史学会議小分科会を設置するための申請を幹事会に対して提出することに決定。

以上

報	42
総 会	148

## 史学委員会 IUHPS 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 木本 忠昭

### 1 会議開催

平成18年2月23日（第1回）

### 2 報告事項

（第1回委員会）— 平成18年2月23日—

#### （1）役員選出

分科会委員長に木本委員、副委員長に矢野委員を選出した。

#### （2）今後の活動について

国内における科学史・技術史分野での研究および、同分野を介しての科学・科学者の社会的諸問題への解明と取り組みのための諸問題の審議を行うほか、IUHPSを通じて国際的連携をはかり、国際的規模での科学・技術と社会の研究と諸問題の取り組みを行う。国際業務としては、本分野での国際的規模での online database 構築や、IUHPS との連絡調整業務がある。また4年に1回行われる国際会議・学術研究集会の組織化や大会開催に伴う諸業務の調整・企画をも分担する。

この活動のために、木本委員長、矢野副委員長を特任連携会員に推薦することとした。

以上

報	43
総 会	148

地域研究委員会・環境学委員会合同 I H D P 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 熊田 禎宣

1 会議開催

平成18年3月17日（第1回）

2 報告事項

（第1回委員会）— 平成18年3月17日—

（1）役員選出

分科会委員長に熊田委員、副委員長に碓井委員を選出した。

（2）今後の活動について

I H D P 分科会の活動は、熊田委員長、廣松委員を中心として行なうことを確認し、兩名を特任連携会員に推薦することとした。また、連携会員の中から分科会に御参加いただける可能性がある人について情報を交換した。

（3）国際会議の後援名義申請について

予定されている国際会議の後援名義申請手続きについて事務局が確認することとした。

以上

報	44
総 会	148

## 法学委員会 I A L S 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 位田 隆一

### 1 会議開催

平成18年3月1日（第1回）

### 2 報告事項

（第1回委員会）— 平成18年3月1日—

#### (1) 役員を選出について

互選により、分科会委員長に位田委員、副委員長に長内委員を選出した。

#### (2) 国際会議派遣について

長内委員より、別添資料に基づいて、(1)18期・19期における比較法学研究連絡委員会の申請による国際会議派遣の実績、(2)近年における IALS の活動状況等について説明がなされたあと、本年7月16日～22日にオランダ国ユトレヒト大学で開催予定の第17回国際比較法会議（World Congress of Comparative Law）への派遣申請の可否について審議した。

その結果、国際比較法会議の第15回大会（平成12年）および第16回大会（平成14年）では IALS が共催団体に名を連ねていたが、第17大会についてはこの点が確認できず、国際会議派遣申請基準を満たすことが難しいと判断されるため、今回は申請を見送ることとした。

なお、IALS 以外の国際学術会議への派遣については、これまで実績がなく、また本年6月までに開催される会議についての申請締切が3月6日と切迫していることから、今回は審議の対象としなかった。

#### (3) 今後の分科会の活動について

IALS との関係を将来的にどのようにするかについて、長内委員を中心に関連学協会等の意見聴取に努め、その上で本年7月頃を目途に、本分科会としての方針を決定す

ることとした。また、従来学術会議に登録されていない法学系の国際学術団体との関係については、今期の学術会議及び法学委員会の検討事項とするべきことが了解された。

なお、長内委員の暫定連携会員としての任期が本年3月31日で満了することから、委員長が本分科会の業務を遂行するために必要と判断する場合には、同委員を特任連携会員に推薦するなどの措置を講じることとした。

以上

報	45
総 会	148

基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 I U P A B 分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 永山 國昭

1. 会議開催

平成 18 年 3 月 1 日（委員会における議決方法の特例を用いた議決）

平成 18 年 3 月 13 日（委員会における議決方法の特例を用いた議決）

2. 報告事項

（委員会における議決方法の特例を用いた議決）—平成 18 年 3 月 1 日—

（1）分科会委員長の決定について

分野別委員会委員長に永山國昭を選出した。

（2）代表派遣について

11 月（あるいは 12 月）カナダで開催される第 52 回 I U P A B 幹事会議への永山國昭委員長の派遣提案と他の I U P A B 関連の会議の立候補の有無を照会することとした。

（委員会における議決方法の特例を用いた議決）—平成 18 年 3 月 13 日—

（1）代表派遣について

カナダでの I U P A B 理事会への永山國昭委員長の派遣決定について報告した。

（2）分科会活動について

I U P A B 分科会は、第 19 期の生物物理学研連活動を最大限継承し、また、今後の具体的活動については是々非々で対応を検討する旨照会することとした。

報	46
総会	148

農学基礎委員会・生産農学委員会合同C I G R分科会報告

平成18年3月23日

委員長 木谷 収

1. 会議開催

平成18年2月28日（第1回）

2. 報告事項

（第3回委員会）－平成18年2月13日－

（1）分科会委員長の決定について

委員の互選により木谷 収に決定した。

（2）代表派遣について

平成18年度C I G R関係の代表派遣について次の形で申請を準備し、3月6日の締め切り日までに申請することを決めた。筑波C I G R事務局を支援するため、幹部会関係の申請を優先する。

会議名	月日	場所	派遣者	推薦順位
CIGR 総会及び関連会議	9月3～7日	ボン	木谷 収	3
CIGR 理事会及び関連会議	9月2～7日	ボン	佐藤洋平	4
CIGR 幹部会及び関連会議	9月2～7日	ボン	前川孝昭	1
CIGR 幹部会及び関連会議	11月17～18日	ボローニャ	前川孝昭	2

（3）活動方針について

C I G Rの幅広い国際活動に対応するためには、前期までのように分科会の中に小委員会を作って対処することが望ましいが、それが難しい情勢なので、次回までに代案を検討し、対処する。

（4）その他

1. 佐藤洋平・前川孝昭両連携会員の任期が18年3月31日で切れるので本人に確認の上、特任連携会員の申請手続きを行う。
2. 次回のC I G R分科会を3月26日または28日に行う。（調整の結果、3月28日、14:30～15:30に決定）

報	47
総会	148

基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・  
基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 I U M S 分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 野本 明男

## 1. 会議開催

平成 18 年 3 月 20 日 (第 1 回)

## 2. 報告事項

(第 1 回委員会) -平成 18 年 3 月 20 日-

### (1) 分科会委員長の決定について

委員の互選により、委員長に野本明男を選出した。

### (2) 活動方針について

分野別委員会分科会に総合微生物科学分科会、病原体学分科会など I U M S に関連の分科会が設置される予定であるので、それぞれの活動を見ながら、連携の図り方を検討することとした。

### (3) その他

現在光山正雄先生が暫定連携会員であり、任期が年度末で終わることから、来年度以降も分科会の審議に参画していただくため、特任連携会員として推薦することとした。

報	48
総 会	148

農学基礎委員会・生産農学委員会合同 I U S S 分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 犬伏 和之

1. 会議開催

平成 18 年 2 月 21 日（第 1 回）

2. 報告事項

（第 1 回委員会）－平成 18 年 2 月 21 日－

（1）分科会委員長の決定について

委員の互選により、委員長に犬伏和之を選出した。

（2）代表派遣について

7 月に開催される世界土壌科学学会に代表派遣の推薦を行うことを決めた。派遣者については、犬伏委員長のほかに数名調整の上、決定することとした。

以上

報	49
総 会	148

## 基礎医学委員会 I U P H A R 分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 三品 昌美

### 1. 会議開催

平成 18 年 2 月 27 日 (第 1 回)

### 2. 報告事項

(第 1 回委員会) -平成 18 年 3 月 20 日-

#### (1) 分科会委員長の決定について

委員の互選により、委員長に三品昌美を選出した。

#### (2) 代表派遣について

7 月に開催される I U P H A R 会議には、真崎委員と小林眞一先生を派遣する方向で調整することとした。(調整の結果、真崎委員のみを学術会議の代表派遣として推薦することとした。)

#### (3) 今後の活動方針

I U P H A R の活動と連携をとり、2014 年の I U P H A R 日本招致のための招致委員会をサポートしていくこととした。

以上

報	50
総 会	148

## 基礎医学委員会 I C L A S 分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 玉置 憲一

### 1. 会議開催

平成 18 年 3 月 3 日（委員会における議決方法の特例を用いた議決）

### 2. 報告事項

（委員会における議決方法の特例を用いた議決）—平成 18 年 3 月 3 日—

#### （1）分科会委員長の決定について

委員の互選により、委員長に玉置賢一を選出した。

#### （2）代表派遣について

8 月に行われる国際動物実験科学者会議理事会に玉置委員長と伊藤豊志雄委員を派遣する旨推薦することを決定した。

報	5 1
総 会	1 4 8

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同C I O M S分科会報告

平成 18 年 3 月 23 日

委員長 北島 政樹

1. 会議開催

平成 18 年 3 月 6 日（委員会における議決方法の特例を用いた議決）

2. 報告事項

（委員会における議決方法の特例を用いた議決）—平成 18 年 3 月 6 日—

（1）分科会委員長の決定について

分科会委員長に北島政樹を選出した。なお、今後連携会員が任命された場合、改めて委員長等の選出を行う可能性があることも確認した。

（2）代表派遣について

5月のC I O M Sコアグループ会議と10月の幹事会に松田一郎委員を派遣し、11月の総会については、人選は後ほど検討することで2名の派遣推薦を行うことを決定した。

報	53
総会	148

## 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 I G B P 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 入倉 孝次郎

### 1. 会議開催

平成18年2月28日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回委員会）－平成18年2月28日13時～15時

出席者 入倉孝次郎（会員）

小池勲夫、松野太郎、甲山隆司（連携会員）

分科会委員全員出席のもと、国際地球圏-生物圏協同研究計画（IGBP）の新規国内委員会体制について打ち合わせを行った。IGBP 第2期の国際体制の進捗について確認を行った。従来、日本からの IGBP 科学委員は1名だったが、昨年より2名（松野・甲山）になり、また各コアプロジェクトの科学実施委員会にも日本人委員が加わった。

4月以降の実施体制として、入倉委員長、小池副委員長、甲山幹事を決定し、各コアプロジェクト、連携プロジェクトの担当者として、特任連携会員の推薦を行うことを決め、人選を薦めることとした。各担当連携会員は、対応プロジェクトの小委員会（日本委員会）を組織することになる。

報	54
総会	148

## 物理学委員会 IUPAP 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 榊 裕之

### 1. 分科会の開催

平成18年2月14日（第1回）

### 2. 報告事項

#### (1) 委員長等の選出について

- ・互選の上、榊委員を委員長に選出した。

なお、榊委員長の任期は連携会員が入ってくるまでの間とし、連携会員決定後、改めて委員長、幹事等を選出し直すこととした。

#### (2) 代表派遣会議及び代表派遣者について

- ・潮田委員が取りまとめを行うこととした。

#### (3) IUPAP 総会について

- ・2008 年開催予定の IUPAP 総会の招致について、潮田委員から説明があった。

・学術会議との共同主催としたいとの要望があったが、共同主催とするためには、開催年度の3年度前の11月末までに申請するとの規則があり、2008年度開催分については昨年（2005年）11月末に締め切られていることから、黒川会長に別途対応可能か依頼を行ったが、国際担当から対応は難しいとの返事があった旨の報告が潮田委員及び永宮委員からあった。

・学術会議との共同主催とするための方策については、事務局において検討を行うこととした。

・IUPAP分科会としてはIUPAP総会の招致を承認し、その準備委員会をIUPAP分科会が兼ねることとした。

・IUPAP分科会委員については、IUPAP役員関係者を特任連携会員としての推薦を行うこととした。人数については特任連携会員の枠が決まり次第、Chair(1

人) > Vice Chair(4人) > Secretaries(3人)の順で推薦を行うこととした。

(4) IUPAP の General Assembly (2005年10月25-29日: Capetown) について

・2005年の総会で、2005-2008年の役員などが以下の通り決定された。

新会長: Alan ASTBURY (カナダ University of Victoria、物理・天文学科)

次期会長: Sukekatsu USIODA (潮田資勝、北陸先端大)

前会長: Eve PETROFF (フランス 欧州放射光施設)

専門分科会(Commissions)の構成と今期の日本からの委員

・各専門分化会の名称と、それに属する(今期2005-2008年の)日本からの委員名は下記のとおりである。

C. 2: 記号・単位・術語、原子質量と基礎定数 (SUN-AMCO)

大苗 敦 (計量研)

C. 3: 熱力学と統計物理

西森 秀稔 (東工大) (幹事)

C. 4: 宇宙線

鈴木 洋一郎 (東大)

C. 5: 低温物理

河野 公俊 (理研) (副委員長.)

C. 6: 生物物理

伏見 譲 (埼玉大) (副委員長.)

C. 7: 欠番 (元は 音響物理)

C. 8: 半導体

榊 裕之 (東大) (委員長)

C. 9: 磁性

前川 禎通 (東北大) (副委員長)

C. 10: 凝縮固体の構造と力学

藤井 保彦 (原研)

C. 11: 素粒子と場

山中 卓 (阪大) (幹事)

C. 12: 核物理

酒井 英行 (東大) (幹事)

C. 13: 開発のための物理

黒川 真一 (高エネルギー研)

C. 14: 物理教育

川勝 博 (香川大)

C. 15: 原子・分子物理学と分光

山崎 泰規 (東大) (副委員長)

C. 16: プラズマ物理

伊藤 早苗 (九大)

C. 17: 量子エレクトロニクス

植田 憲一 (電通大) (委員長)

C. 18: 数理物理

小嶋 泉 (京大)

C. 19: 天体物理学

佐々木 節 (京大)

C. 20: 計算物理学

岡部 豊 (首都大)

(5) Council and Commission Chairs Meeting (2006年2月24-25日: London) への

参加と対応について

(6) その他

IUPAP 分科会は物理学委員会と総合工学委員会との合同分科会として設置することとした。

報	55
総会	148

## 物理学委員会 IAU分科会委員会報告

平成18年3月23日

委員長 海部 宣男

### 1. 会議開催

平成18年2月14日（第1回）

平成18年3月9日（第2回）

### 2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年2月14日－

分科会委員長に海部宣男会員を選出した。

（第2回分科会）－平成18年3月9日－

○現時点の分科会メンバー（海部宣男、佐藤勝彦、福島登志夫）に加え、

オブザーバとして池内了、岡村定矩、奥田治之の三氏に出席いただいた。

○2006年8月にチェコ・プラハにて開催のIAU第26回総会に向けた検討・決定。

1) 代表派遣：候補者推薦の順位は、海部（日本代表）、奥田（第11部会長）、福島（第一部会長）、岡村（次期銀河分野委員長）の順とすることを確認。

2) IAU新会員：推薦のあった候補者リストから、最終候補者48名を決定。

3) IAU会員の確認：2003年以降の会員の変動について確認し、連絡する。

4) その他、総会関連事項について検討した。

○IAU分科会について：物理学委員会に天文・宇宙物理学分科会（仮称）が設置された時点で、同分科会と合併する。8月開催のIAU総会を受けて特認連携会員を推薦し、第三回分科会を開催する。

○その他：学術会議の立ち上げ状況、天文宇宙物理学分野の方向、日本天文学会との協力関係、等について意見交換を行った。

報	56
総会	148

## 地球惑星科学委員会国際対応分科会報告

平成18年3月23日

委員長 河野 長

### 1. 会議開催

平成18年2月25日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年2月25日－

#### （1）委員長の選出

地球惑星科学委員会委員長より、本分科会の趣旨について説明があり、分科会委員長を互選の結果、河野委員が選出された。河野委員長から、幹事として平委員を推薦することが提案され、承認された。

#### （2）日本学術会議の国際対応について

河野委員長から、第20期日本学術会議の内容、現状について及び連携会員特任連携会員について説明があった。

#### （3）分科会のあり方について

平幹事より、地球惑星科学委員会です承された方針として、本分科会に小委員会を置く事が説明された。また、小委員会は、地球惑星科学委員会が世話役となった国際委員会の分科会と対応したものとすとの提案があった。ただし、効率面や実務上の面から再編成もあるうるとの説明がなされた。議論の上、本分科会に小委員会を設置し、活動することとした。

報	57
総会	148

## 化学委員会 IUPAC 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 北川 禎三

### 1. 会議開催

平成18年2月25日 (第1回)

### 2. 報告事項

(第1回分科会) –平成18年2月25日–

1. 分科会委員長を北川禎三に決めた。
2. 代表派遣会議を IUPAC 有機・生物分子化学部会 会議、IUPAC 分析化学国際会議、及び IUPAC 国際高分子会議と決めた。
3. 代表派遣会議の派遣候補者次のように決めた。

IUPAC 有機・生物分子化学部会会議に磯部 稔 (名古屋大学生命農学研究科教授)

IUPAC 分析化学国際会議に渡會 仁 (大阪大学理学研究科教授)

IUPAC 国際高分子会議に澤本光男 (京都大学教授)、北山辰樹 (大阪大学基礎工学研究科教授)、中林宣男 (東京医科歯科大学教授)。
4. 上記の派遣候補者が採択された場合、必要ならば委員長判断で特任連携会員の申請をすることを予め承認した。

報	58
総会	148

## 化学委員会 IUCr 分科会報告

平成18年3月23日

委員長 栗原 和枝

### 1. 会議開催

平成18年3月4日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年3月4日－

#### （1）委員長の選出について

委員長として栗原委員を選出した。また連携会員が発令された後、委員長を大橋委員に引き継ぐことを申し合わせた。

#### （2）代表派遣について

本年度の代表派遣については、国際結晶学会連合(IUCr)と国際結晶成長学会組織(IOGC)について検討し、大橋委員（IUCr 会長、Spring 8）が出席する 2006 年 8 月 2 日～5 日開催の IUCr 理事会（ベルギー、ルーバン）を派遣会議として推薦することとした。

#### （3）その他

現在、IUCr の会長である大橋委員を分科会全体でできる限り支援することを確認した。

報	59
総会	148

総合工学委員会・土木工学・建築学合同WFEO分科会報告

平成18年3月10日

委員長 木村 孟

1. 会議開催

平成18年2月28日（第1回）

2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年2月28日－

（1）委員長および幹事の選出

互選の結果、木村孟会員を委員長に選出した。木村委員長から川島一彦連携会員（3月発令）を幹事に指名した。

（2）特任連携会員候補として、石井弓夫委員、札幌順氏を推薦することとし、池田会員から両氏に依頼して書類を提出することとした。

（3）代表派遣については、石井委員にすでに書類作成を依頼していることを、池田会員から報告した。

（4）Capacity Building に関する委員会委員として、すでに川島一彦会員を推薦したことを報告した。

報	60
総会	148

## 総合工学委員会ICO分科会報告

平成18年3月10日

委員長 小館 椎香子

### 1. 会議開催

平成18年2月27日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回委員会）－平成18年2月27日－

#### （1）委員長等役員の選出

委員長に、小館香椎子会員が、また、幹事に山口一郎委員が選出され決定した。

#### （2）代表派遣について

代表派遣について検討し、岩田委員、山口委員を派遣候補者とするこゝで了承され決定した。

#### （3）ICO国際光学委員会の計画等について山口委員が報告をした後、この分科会としての今後の方針等を議論した。

#### （4）次回、分科会を総合工学委員会（5月頃開催予定）に合わせ同日開催をすることを予定した。

報	61
総会	148

総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 I F A C 分科会報告

平成18年3月10日

委員長 後藤 俊夫

1. 会議開催

平成18年2月28日（第1回）

2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年2月28日－

（1）委員長および幹事の選出

委員長に後藤俊夫委員、幹事に木村英紀委員が選出された。

（2）国際会議代表派遣について

平成18年度海外代表派遣について検討し、木村委員を派遣候補者とすることが承認された。

（3）I F A C 50年史の発刊

I F A C 50年史の扱いについて検討した。

（4）I F A C の今後の活動について

木村委員から I F A C の活動等の報告があった後、本分科会としての今後の方針、特任連携会員等について議論した。

報	62
総会	148

機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM分科会報告

平成18年3月23日

委員長 小林 敏雄

1. 会議開催

平成18年2月15日（第1回）

2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年2月15日－

(1)委員長及び幹事の選出

互選の結果、小林敏雄委員を委員長に選出し、小林委員長が池田委員を幹事として指名した。

(2)今後の進め方について

分科会の審議の進め方については、活動は基本的に分科会に任せ、機械工学及び土木工学・建築学両分野別委員会には結果を報告する方式とする。

(3)代表派遣について

代表派遣について審議し、神部委員を代表派遣者とする事とし、必要書類の作成をお願いした。

(4) IUTAMについて

神部委員から概要について説明があった。

(5)その他

来年度の理論応用力学講演会について、運営委員会委員長、Proceedings 編集委員長を早く定める必要があること、IUTAM シンポジウムは、これまで2年に1回日本で開催しており、今後に向けて日本から手を挙げる必要があること、IUTAM には現在、日本から4名の代表委員が出ているが、代表委員選出のルールを定める必要があることが確認され対応することとした。

報	63
総会	148

## 電気電子工学委員会URSI分科会報告

平成18年3月23日

委員長 松本 紘

### 1. 会議開催

平成18年3月6日（第1回）

### 2. 報告事項

（第1回分科会）－平成18年3月6日－

#### （1）国際電波科学連合（URSI）に関する情報交換

大村委員より国際電波科学連合（URSI）、URSI 日本委員会及び、第19期までの日本学術会議電波科学研究連絡委員会の活動について説明があった。

#### （2）委員長の選出について

委員長を松本委員にお願いすることを決定したが、任期が平成18年3月31日となっているため、4月以降、連携会員が分科会に所属するまでの間、今井委員が引き継ぐこととした。

#### （3）URSI分科会の構成について

特任連携会員として国際電波科学連合の元会長であり、URSI 分科会委員長となった松本委員、同連合のH科学分科会 Vice Chair である大村委員、National Report の編集を担当している小林一哉氏（中央大学・教授）、URSI 日本委員会の資産管理をしている多氣昌生氏（首都大学東京・教授）を推薦することとした。

なお、事務局から特任連携会員の予算枠について説明を受けたが、国際電波科学連合は10科学分科会の連合である、各科学分科会は日本国内においても、数十名からなる小委員会を構成し独自の学術活動を行ってきており、国内の各科学分科会からも各1名を推薦することとした。

提	1
総 会	1 4 8

## 提 案

日本学術会議会則の一部を改正する規則案について

- 1 提 案 者 浅島副会長（組織運営担当）
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり改正すること。
- 3 提案理由 平成18年9月までに任命される連携会員の任期についての規定を整備する必要があるため。

○日本学術会議規則第 号

日本学術会議法（昭和二十三年法律第二百一十一号）第二十八条の規定に基づき、日本学術会議会則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成十八年 月 日

日本学術会議会長 黒川 清

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）の一部を次のように改正する。

附則第二条中「平成十八年六月三十日」を「平成十八年九月三十日」に改める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

日本学術会議会則の一部を改正する規則案新旧対照条文

○ 日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<p style="text-align: center;"><b>附 則</b> (経過措置)</p> <p><b>第二条</b> 令第一条の連携会員のうち、平成十七年十月四日から平成十八年九月三十日まで<del>に</del>に任命される者の任期の終期は、平成二十三年九月三十日までの間で会長が指定する。</p> <p>2 前項の連携会員のうち、半数の者の任期は、平成二十年九月三十日までとするよう努めるものとする。</p>	<p style="text-align: center;"><b>附 則</b> (経過措置)</p> <p><b>第二条</b> 令第一条の連携会員のうち、平成十七年十月四日から平成十八年六月三十日まで<del>に</del>に任命される者の任期の終期は、平成二十三年九月三十日までの間で会長が指定する。</p> <p>2 前項の連携会員のうち、半数の者の任期は、平成二十年九月三十日までとするよう努めるものとする。</p>

提	2
総 会	1 4 8

## 提 案

日本学術会議細則の一部を改正する決定案について

- 1 提 案 者 浅島副会長（組織運営担当）
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり改正すること。
- 3 提案理由 会長の互選を行うに当たり、選考方法を改正し、より明確にするため、日本学術会議細則の一部を改正する必要がある。

## 会長候補者推薦委員会設置要綱（案）

〔平成18年 月 日〕  
〔日本学術会議第 回幹事会決定〕

### （設置）

第1 会長候補者推薦委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第25条に基づく委員会として幹事会に附置する。

### （組織）

第2 委員会は、6名以上8名以下の会員をもって組織する。ただし、委員会の委員が日本学術会議細則第2条第3項第1号に規定する会長候補者となる場合又は同項第2号の規定により推薦された場合は、速やかにその職を辞するものとする。

### （任務）

第3 日本学術会議細則第2条に規定される会長の互選に関する事項を審議する。

### （設置期限）

第4 委員会は、平成18年10月11日まで置かれるものとする。

### （庶務）

第5 委員会の庶務は、事務局企画課において処理する。

### （雑則）

第6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

### 附 則

この決定は、決定の日から施行する。

## 会長の互選に関する幹事会決定（案）

日本学術会議細則（平成17年10月4日日本学術会議第146回総会決定）（以下「細則」という。）第2条第5項の規定に基づき、以下のとおり定める。

## （推薦）

第1条 細則第2条第3項第2号に規定される推薦の受付期間は、委員会が推薦を受け付けることを公表した日から14日間とする。

2 この推薦については、次の各号のいずれかに該当する場合は無効とする。

- （1）委員会が定める様式を用いない場合
- （2）1人の会員が2人以上の会員を推薦した場合
- （3）推薦者の数が3人に満たない場合
- （4）記載内容を確認し難い場合

## （事前に送付する資料）

第2条 細則第2条第3項の投票を行うに当たり、事務局長は、会員（互選が行われる総会時に会員である者をいう。以下同じ。）に対し、その返送期日の10日前までに、次の資料を送付することとする。

- （1）投票用紙
  - （2）返送用封筒
  - （3）投票用紙封入用封筒
  - （4）細則第2条第3項第1号の推薦リスト（履歴及び研究業績等投票の参考となる資料を含む。）
  - （5）その他同条第1項に基づく会長候補者推薦委員会（以下「委員会」という。）が必要と認めた資料
- 2 細則第2条第4項の投票を行うに当たり、事務局長は、会員に対し、会長の互選が行われる総会に先立ち、次の資料を送付することとする。
- （1）細則第2条第4項第1号により提示された者のリスト（履歴及び研究業績等投票の参考となる資料を含む。）
  - （2）その他委員会が必要と認めた資料

## （投票）

第3条 細則第2条第3項の投票に当たり、会員は、あらかじめ定められた期日までに、前条第1項第2号に規定する封筒により事務局あて返送する。なお、期日までに事務局に届かなかつた場合は、当該会員の票は無効とする。

## （無効投票）

第4条 細則第2条第3項に規定される投票については、次の各号のいずれかに該当する票は無効とする。

- （1）第2条第1項第1号から第3号までに規定する用紙及び封筒を用いない場合

- (2) 同一者の氏名を複数回記載した場合
  - (3) 3名以上の氏名を記載した場合
  - (4) 第2条第1項第4号に規定される推薦リストに掲載された以外の者を記載した場合
  - (5) 氏名のほか、他事を記載した場合。ただし、職業、身分、住所又は敬称の類を記入した場合は、この限りでない。
  - (6) 氏名を自書しない場合
  - (7) 何人を記載したかを確認し難い場合
- 2 細則第2条第4項に規定される投票については、次の各号のいずれかに該当する票は無効とする。
- (1) 2名以上の氏名を記載した場合
  - (2) 第2条第2項第1号に規定されるリストに掲載された以外の者を記載した場合
  - (3) 氏名のほか、他事を記載した場合。ただし、職業、身分、住所又は敬称の類を記入した場合は、この限りでない。
  - (4) 氏名を自書しない場合
  - (5) 何人を記載したかを確認し難い場合

(同一の氏名の者等に対する得票の有効)

第5条 同一の氏名、氏又は名の者が2人以上ある場合において、その氏名、氏又は名のみを記載した票は有効とし、その同一の氏名、氏又は名の者の人数分の1をそれぞれの得票とする。

2 前項の規定は、細則第2条第4項の会長の互選のための投票について準用する。

(立会人)

第6条 細則第2条第3項に規定される投票の開票は、委員会が本人の承諾を得て、委員会の委員から指名した2名の立会人の立会いの下で事務局が開票を行い、投票された票について疑義が生じた場合は、立会人の判断による。

2 同条第4項に規定される投票は、本人の承諾を得て、立会人となるべき者を50音順で最初の会員及び最後の会員をもって充て、その立会いの下で事務局が開票を行い、投票された票について疑義が生じた場合は、立会人の判断による。なお、その者が会長の候補者である場合又は不在である場合は、順次該当する者をもって充てる。

## 附 則

この決定は、決定の日から施行する。